大正九年十一月十四日 第三種郵便物認可

新京日日新聞

夕刊　二月十日

本紙定價 一ヶ月一圓 一部五錢 廣告料 普通一行一圓五十錢 特別同 二圓五十錢

發行所 新京日日新聞社 新京永樂町四ノ一 電話三・二二五・三三〇〇

發行人 十河榮忠　編輯人 和波巖　印刷人 水越内之介

皇國二千六百年 輝く紀元節祭

あす、全滿に慶祝大行進譜

煥として輝く友邦日本の悠久紀元二千六百年に當り建國の意義一入深く興亞の春に迎へるあすは紀元の佳節、春淺けれど全滿各地に奉祝の氣漲り日滿一德一心の達成に、紺碧に晴れ渡つた大空はあすを慶祝して輝きわたるかと思はれる、あくれば十一日、全滿あげて感激の慶祝行事が繰り展げられるのだ、國都では午前八時五十分から忠靈塔前に協和義勇奉公隊、青年團、協和會各分會、各種團體など約一萬五千人が參集して嚴肅な記念式典を擧行したのち、奉祝歌も高らかに忠靈塔を出發、新京神社から帝宮前への堂々たる慶祝大行進を開始する、ついで午前十時國都劇場で慶祝講演映畫會、午後二時協和會館で青少年團講演映畫會と同六時慶祝講演劇會が行はれ、同七時からは滿鐵社員倶樂部で豪華な紀元節慶祝の夕が開かれるほか回教始め各宗教團體や日滿鮮白露系各市民の記念催しなども行はれ三千七百の馬車、千二百の洋車始めバス、自動車も一齊に日滿國旗を掲揚祝意を表するはず、一方全滿各地でもこれに呼應して同樣趣旨の慶祝行事があり午前九時の紀元節慶祝國民の時間には各地に於てサイレン、汽笛、鐘などで國民に周知し、バス、自動車、馬車、人力車は停車、全國民が皇居帝宮を遙拜、東亜聖業完成を祈願する

紀元二千六百年 奉祝上奏案を上程

けふの貴衆兩院本會議

【東京國通】十日は貴衆兩院とも本會議を開き劈頭それぞれ紀元二千六百年奉祝上奏案を上程、滿場一致これを可決する

貴族院 法律案を委員附託とした後國務大臣に對する質問を續行、阪谷芳郎男（公正）より外交と支那事變處理に關し、山隈康氏（研究）より地方制度改正案提出について政府に質す

衆議院 税制改革關係法案に對する質疑を續行した後これを委員附託とする、一方豫算總會は牧野良三氏（政久）末松偕一郎氏（民）三善信房氏（政久）塚本重藏氏（社）等が質疑を續行、更に齋藤隆夫氏の失言問題に關する懲罰委員會には小山議長が自發的に出席して中井委員長との間に議長の責任問題の釋明を行ふ豫定であり、この成行きが注目されてゐる

青少年義勇軍に 徴兵上の特權附與

軍當局と折衝 小磯拓相答辯

衆議院豫算總會

【東京國通】九日の衆議員豫算總會は二時二十七分再開

松村謙三氏（民） 農相は先般十五年度米穀需給事情は大丈夫であると云はれたが眞に國民が安心し得るやう計數的根據を説明されたい

島田農相 色々の實情を考慮して需給を推算すると昨年度より持越した米は内外地を通じ四百七十萬石、今年度の生産は内地六千九百萬石、臺灣一千萬石、朝鮮一千四百萬石でこれ等を合計すると供給高は約九千八百萬石、これに外米を併せて一億萬石以上の確保が出來る一方消費の方では節米その他を考へて九千五百萬石更に輸出量が百萬石、消費及び輸出併せて九千六百萬石位となる、以上の需給關係より見て同年の端境期に於ては四百七十萬石を下らざる持越米を見込み得ると考へる

松村氏 米穀の増産方策について成算ありや、また日滿支を通ずる食糧政策確立の決意ありや

島田農相 日滿支の間において大局的な綜合的對策を樹てることの必要なことは勿論のことであるが現狀では未だ滿支へ輸出される狀態であるからその現狀に即してよく考へねばならぬ

三宅正一氏（社） 農産物増産計畫は何故生産力擴充計畫のうちに取り入れなかつたか

島田農相 十五年度以降は十五品目と同樣の取扱をするようその資材を物動計畫中に組み込むべく目下關係者と折衝中である

午後五時十五分本會議における物動計畫秘密會出席のため一旦休憩、午後七時十分再開

三宅氏 東亜新秩序とは東亜における日本の自主性と、この上に立つ門戸の開放でなければならぬと思ふが、外相の所見如何

有田外相 東亜の新秩序は日滿支三國が各々その獨立と個性を維持しつゝ政治、經濟、文化の提携をなすことである、從つて支那において主權、行政權の拘束を受けてをればこれを開放し、また經濟關係においては支那を完全なる經濟活動一單位として世界の經濟生活に參加せしめなければならぬ、日滿支が經濟的に提携しても決してそれは排他的のものであつてはならない

三宅氏 陸相は徴兵年齢を引下げる意思はないか、また青少年義勇軍に對しては徴兵上の特權を與へられたい

小磯拓相 青少年義勇軍の兵役上の特權については中央軍當局と協議折衝中である

畑陸相 徴兵年齢を下げる意思はもつてゐない

これにて三宅氏の質問を終り午後九時散會

物動秘密會

【東京國通】十日の衆議院豫算總會は午前十時廿三分開會

三土委員長 昨日の本會議における物動計畫の説明に關して質疑を行ふことになつてゐるが政府側の希望に依り秘密會にすると宣し直に秘密會に入つた

西北作戰 オルドス平原におけるわがトラック隊の大縱列マヂノラインのやうに見える

東亜新秩序の意義

米内首相、有田外相の解説

【東京國通】九日の衆議院豫算總會席上、三宅正一氏（社）の東亜新秩序の意義に關し政府の見解を質したが米内首相、有田外相は左の如き注目すべき答辯（速記）を行つた

米内首相 日本、滿洲、支那がそれぞれの本然の特質を發揮しつゝ有無相通じまして、さうしてそこに高い結合を圖りまして その發展を遂げ而しておい互に善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧げると言ふことは、これわが國の國防上の見地から考へても缺くべからざることであります、又經濟上から考へてもやはり同じことと思つてゐます

有田外相 東亜新秩序は主として日滿支の三國ですが、各々その獨立を維持しその個性を保持しつゝ密接に連絡して行き政治的にも經濟的にも亦文化的にも互助連環の關係をもつて行く、かう言ふ意味で申上げたのであります、從つて日滿支三國のうち殊に支那におきましては行政範圍等におきまして制限を受けると言ふことが有りますれば、それ等において完全な行政的獨立を保持して行くと言ふことが必要になつて來ると思ふのであります、又經濟的の意味から言ひますれば此の三國は最も密接な連絡をもつてそして世界の經濟財政における一つの單位として他に多くの單位と共存し又協力して行ける樣にその目的があると考へてをるのであります、勿論經濟的に日滿支の三國が密接な連絡をとつて行くと言ふことについては、こゝに充分に説明して置かなければならぬと思ふのでありますが、一方においてはこの日滿支の經濟的關係が出來れば全然他國と經濟的關係が無くなつて來るのだと言ふ考へも一方において持つものもあり得ると思ふのであります、又この經濟的關係が出來れば從つて外國の活動と言ふものはこの東亜において排斥するのかと言ふ樣な考へがあるのでありますが、これは全然間違つた考へであると思ふのであります、さう言ふ風に日滿支が經濟的に連絡したから云つて他の經濟世界から全然獨立して行けるわけではないのでありまして、唯主なる點においては日滿支が自足が出來ると言ふことを目標として行くわけであります、その他の點につきましては無論相互に經濟的關係が出來て相互に連絡し、支那と他の單位との間に經濟上の連絡が出來、交通が出來、益々高い經濟上の發展を遂げて行けると言ふところに進んで行けるかう言ふ風に考へてゐるのであります

主なる受賞者

論功行賞に武勳榮ゆ

【東京國通】今次の論功行賞の恩命に浴した武勳甲以外の主なる受賞者左の如し

△病死者
功三 旭一 中將 内藤正一
旭一 中將 小笠原一夫
瑞一 中將 安藤麟三

△戰死傷病死者
瑞三 少將 河村秀男
少將 渡邊廣太郎

功四 旭日中綬章 軍醫少將 佐藤林太郎
瑞二 步兵大佐 山田太作
功四 旭三 騎兵少佐 山口招一
功五 旭四 航空兵中佐 藤田雄藏
功三 旭日小綬章 工兵大佐 高島久之
旭日中綬章 軍醫少佐 藤田近二
旭五 軍醫少佐 矢吹文獅
旭四 軍醫少佐 小林英輔
功三 步兵大佐 高倉正儒
功四 旭三 步兵中佐 大島藤吉
旭四 砲兵中佐 岡本英
功五 旭五 航空兵少佐 十川宇吉
旭日中綬章 步兵大佐 山本武彦
同 步兵大佐 秋山喬樹
瑞四 步兵中佐 山内理明
同 步兵少佐 島田瑞穗

中央軍飛機 延安を爆撃

國共抗爭擴大激化

【北京十日發國通】當地に達した情報によれば去る一月十五日支那中央軍の飛行機五機が共産黨の本據延安を爆撃したと傳へられてゐる、これは一月十五日日本機が延安を急襲し非戰鬪員にも多數の死傷者を出したと支那側では報道したが、當時日本軍は同方面に活動せず不審がられてゐたもので右情報により初めて眞相が暴露され山西を中心に各地で行はれてゐる部分的國共抗爭はいよいよ全面的に擴大され、今後國共の相剋は一層深刻化するものとみられる

蠢動敵撃退

【漢口九日發國通】わが村井、升久各部隊は京山、安陸公路南方山地内に蠢動中の新四軍に屬する五十五、百四十九、百六十二各師の混合部隊を去る五日以來包圍攻撃中であつたが、八日夜敵は西北方に總退却、同公路は靜穩となつた、右戰鬪に於ける戰果は敵遺棄死體九百六十二、鹵獲機關銃十一の多數にのぼつた

斷乎、對米態度を清算

非友誼的の對日壓迫募る

【東京國通】アメリカ上院外交委員會は去る七日の委員會に於て重慶政權に對し二千萬ドルの借款を供與するに決定した旨報ぜられてゐるが、これは去る一月廿六日日米通商條約失效以來惡化の一路を辿りつゝあるアメリカ國内對日輿論が淺間丸事件に關し日英間に消極的な圓滿解決策が講ぜられた事に對する反感を機にもり上つたものと見られてゐる、一方アメリカ政府に於ても輿論に慫はされて對日優越感を見ぶらせ對重慶政權借款に引續き左の如き非友誼的措置を實行の日程に擧げてゐるものと見られて居る

一、對日輸出禁止についてピットマン案が議會において正式採決されると否とに拘らず既に豫定の計畫となつて居るピットマン案不成立の場合には道義的貿易中止によつて帝國の新秩序建設に要する國力漸減の方針を執る事

二、日本を目標とする新軍擴案を急速に實施する事

三、ヒリッピンにおいて日本人の入國制限、在留日本人の權益制限を目標とする移民法の制定を用意しつゝあること

四、汪精衛氏を中心とする新中央政府を否認する事など經濟的、軍事的、政治的各手段を動員して對日壓迫を加へ來るものと見られてゐる、殊に新中央政府誕生を繞つて英佛ソ各國の急防共の盟邦イタリーに迄誘惑の手を伸ばし一氣に塗息せしめんとする國際干渉を企圖しつゝある模樣である斯くて今日の情勢の儘推移するにおいては東亜新秩序を中心とする帝國と米國とは重大なる對立的地位に置かれることも敢て杞憂と斷ずることを得ない情勢で帝國政府としてもこの間の事情を重大視し從來の對米友好關係を基礎に東亜新秩序の實體を米國官民に正解せしめその協力を得んとする態度を根本的に清算

一、通商貿易上の對米依存を脱却する方策

一、新秩序建設力瀰漫と長期經濟方策

一、事變收拾を效果的ならしむるに足る重大なる政治的措置

などにつき急速な研究を開始する一面最悪の事態に備へて帝國の對外性を一變せしめる重大な措置について愼重なる考慮を開始すべき段階に到達したものと信ぜられてゐる

維新以來の 英靈遺家族を顯彰

今議會に法律案提出決定

【東京國通】九日夜西岡竹次郎（政久）西川貞一（政久）窪井義道（政島）羽田武嗣郎（政島）小泉純也（民）岡野龍一（民）前川正一（社大）平野力三（第一倶）の八代議士は日比谷松本樓に參集各派有志代議士協議會を開いて靖國神社に合祀された維新以來今次事變に亘る約二十萬柱の英靈の遺家族を國家的に顯彰する意味で、俗稱勳族記號を戸籍に記載して戰死者の餘榮を遺族に及ぼし永く國民に銘記させるべしと各々意見を持寄り早速今議會に右法律案を提出することを滿場一致で可決散會した

南支方面の 掃蕩戰を續行

南支軍發表戰果

【廣東十日發國通】南支軍九日發表＝各部隊の引續き實施しある掃蕩戰は各所において大なる戰果を收めつつあり

一、二月八日武鳴邊地において活躍せる原田、渡邊、末次、林、松本、坂田等の諸部隊は敵第九十三師及び第二師、第百卅五師その他全敵五千を撃破せり、敵遺棄死體一千三百二十、鹵獲品＝兵器六、手榴彈、小銃彈八十四萬及びその他軍需品多數に達せり

二、一方七日より八日に亘り王靈、黎塘、汙（賓陽東方四十キロ）附近においてわが野溝、小川、石原等諸部隊の遭遇撃破せる敵は百五十六師、百七十五師及び百十五師の約六千にして確認せる敵遺棄死體二千を下らず鹵獲品多數に上る見込み

第五軍管區 討匪の成果

第五軍發表＝第五軍管區の一月中に於ける綜合討匪の戰果左の如し

敵遺棄死體二〇、負傷二五、捕虜九、鹵獲品小銃九、同彈三七四、拳銃三同彈五五、自動小銃二、同彈五〇、地雷二、その他被服糧秣多數

賓陽平野に 敗敵三千を潰滅

【廣東十日發國通】松本、笠菅、福田、角田、坪井の各部隊は賓陽西南方山地の掃蕩を終へ南下の途中八日下施村附近で賓陽平野を敗走する約三千の敵と遭遇、

米の對支借款

報酬問題から暴露

【ニユーヨーク八日發國通】著名の辯護士ルトルス・ヘヒト氏が八日米支合辦のユニバーサル商事會社を相手取つて報酬百萬ドルを要求する訴訟を提起したところから端なくも一九三八年總額三千萬ドルの對支借款成立の陰の策動が明らかとなりアメリカでセンセイションを起してゐる

今回の訴訟提起に依つて支那が如何にニユーデイール派の所謂「支那の友人」なるものを利用してルーズヴエルト大統領及びハル國務長官その他政府高官に働きかけ對支借款獲得に成功したかの裏面の事情を明るみに暴露したが目下上院で新對支借款が論議されてゐる折からとて政治問題化する危險がありその成行は各方面から注目されてゐる

阮駐日大使歸任【東京國通】萬壽節の御儀へ參列のため歸國中の阮駐日滿洲國大使は十日午前七時三十分東京驛着列車で歸任した

飯野交通部次長歸任 飯野交通部次長は交通部機構改革に伴ふ要員充足その他所管事項打合せのため東上中の處九日午後六時十分新京飛行場着日滿連絡機にて歸任した

人事往來

着京

▲岸達雄氏（機械商）十日東京常盤旅館
▲池田隆氏（畫家）同
▲川上久夫氏（會社員）同大和ホテル
▲高橋慶明氏（同）同
▲渡邊富春氏（貿易商）同
▲工藤重次郎氏（土木請負業）同
▲齊田兼氏（貿易商）同
▲浪花幸次氏（同）同
▲山野太郎氏（會社員）同
▲千種峰藏氏（滿鐵保健課長）同
▲庄田秀麿氏（官吏）同國際ホテル
▲清水正男氏（同）同
▲平山繁氏（協和會）同
▲前田新助氏（官吏）同
▲須藤省三氏（生活必需品會社員）同松屋ホテル
▲小川猛雄氏（會社員）同

出發

▲垣見清一郎氏 大連へ
▲富長正義氏 哈爾濱へ
▲片平信貴氏 同
▲風岡健司氏 内地へ
▲佐藤一榮氏 張家口へ
▲高橋吉太郎氏 市内へ

その日く

◇ 高鳴る一億の合唱の前に先づ三千萬を代表してけふ國都樂團は立つた

◇ この力強い前奏あつて、あす嚴粛な佳節へ、この進行を良しとしよう

◇ 時代行進の跫音は、この時この際ひとしほに高く聞えて來る

◇ かゝる時にも、開拓地入植、發電工事と、建設は進んで居る

◇ 昏迷と破壞のヨーロッパは、時代の舞臺裏に殘し去つて……

高鳴る慶祝の大序曲
本社主催・合同演奏會の盛觀

國都樂團先づ起つ
絢爛開く音樂繪卷
世界に響けと世紀の感激一堂に

友邦日本の紀元二千六百年を壽ぐ國都に於ける慶祝記念行事の劈頭を飾る首都慶祝委員會並に本社共同主催の奉讃日本紀元二千六百年國都吹奏樂團合同大演奏會は紀元佳節の前日十日午後一時から新京西廣場滿鐵社員倶樂部に於て絢爛豪華の陣容をもつて開始され此世紀のメロデイーは電波に乘つて日本はもとより遠く歐米にまで傳へられた此日國都は凛烈骨を刺す寒波から解放されて陽光燦々と萬象に照り映ゆる麗かな小春日和滿洲建國以來未曾有の快擧世紀のメロデイーに接せんものと西廣場へ西廣場へと運ぶ足、足、足の波だ、千五百を容れる豪壯な會場も忽ち立錐の餘地なく埋め盡され靜かに開場を待つ

定刻一時野口本社事務部長の開會の辭にてプログラムの幕は切つて落された全員起立襟を正して會場正面に掲げられた日滿兩國々旗に對して感謝の頭を垂れ遙か東方聖上在す宮居の空を伏し拜んで聖壽の萬歳と國威發揚、皇軍將兵の武運長久を祈り併せて興亞の人柱となつた先人の靈に對し衷心感謝の默禱を捧げついで協和會首都本部松木俠氏の開會宣言の朗讀があり終つて山田新京軍樂隊々長の指揮棒一尖全員起立裡に日滿兩國々歌の莊重なるメロデイーは全樂團々員の手から口から流れ出で森嚴の氣會場を包む、かくて式典の次第を終り待望の豪華プログラムの幕は生氣溢れる京中吹奏樂團によつて切つて落された

滿鐵新京吹奏樂團、電業吹奏樂團、京商吹奏樂團、新京軍樂隊、新京音樂院、關東軍々樂隊等々今日を晴れの出場に妙技は彌が上にも冴えて聽衆はただ恍惚、本社の快擧に讃して特別出場の音樂院混歌合唱團の合唱は錦上一段の華を添へ奉讃の音律はプログラムに從つていよいよそのクライマックスへと進展して行つた

臨時政府學生團來京 新興滿洲國の躍進情況を視察の途にある中國臨時政府學生滿洲國視察團一行十一名は十日午前十一時四十二分着列車で來京した

總領事館拜賀式

十一日紀元節にあたり新京總領事館では構內大使館參事官官邸で午前十一時から同十一時三十分までの間御眞影拜賀式を擧行する

青年學校記念式

新京青年學校では十一日紀元節當日午前十時より同校に於て記念式典を擧行、式典終了後續いて講堂を會場に武道大會を行ふことゝなつた

在滿半島人にも待望の日本名
改姓受付 紀元節トし開始

朝鮮における親族相續に關する法律を內鮮一體化し家庭生活、團體生活の一元化をはかるため昨年十一月十日官報を以て公布せられた朝鮮民事令の改正により半島人に「氏」制度が確立され日本ではすでに本年一月一日から實施、半島國民を歡喜させたが滿洲國にあつても同法令に基き在滿半島人に「氏」制度を實施すべく大使館當局で協議の結果いよいよ十一日紀元の佳節をトしてこれが受付を開始することゝなつた

二千六百年の意義ある式日に待望の氏をつけることの出來る在滿百二十萬鮮系市民の欣びは想像以上のものがあり何れも雀躍われらが春を謳歌しつつ素晴しい「氏」をつけようとそれぞれ新姓考慮に頭をひねつて居り、中でも治安部の陸軍獸醫上尉裵雲景氏など早くも飯田雲景と改姓した旨を公示一同をあつと感心させてゐるほどだが

國都二萬の鮮系を指導する協和會首都鷄林分會を訪へば副分會長李鴻周氏らは「聖恩の有難さに感泣してゐます」と喜色を面上に溢れさせてゐる

なほこの改姓屆出の所轄機關である首都警察廳內警務科兵事股(大使館地方兵事員)では、何千人がかけつけようとも遲滯なく受付けようとの準備を着々進め十日ラヂオ放送等による布告手配を終へ十一日は祭日なので大體十三日から改姓屆が殺到しようと觀測してゐるが、國都近郊の屆出場所は次の通りである

△新京特別市內居住者=首警內地方兵事員へ△長春縣內居住者=同縣警務科大使館囑託員△双陽縣內居住者=同縣警務科大使館囑託員

"第九"中の歡喜の曲合唱
異色、錦ケ丘の記念音樂會

紀元節の佳日をトして三百女性の大合唱がしかも「第九交響樂」の難曲を韻律に國都の空を揺がさうといふ異色行事が錦ケ丘高女生によつて計畫されてゐる、錦ケ丘高女では既報の如く紀元節を記念してとくに日系同胞の作曲による愛國歌詞のみ十六曲目を演奏する記念音樂會を開催するが、この番組の最終を飾る「紀元二千六百年に寄す」は古後關德教諭がベートヴェンの「第九交響樂」の最終樂章中の終「歡喜に寄す」の曲をかりて作詞したもので在京音樂家大津留晴子、岩獄千代子、瀧澤雪子、田壽子四夫人が曲中の獨唱、四重奏をうけもち之に同校三、四女生三百名が共演石川和子孃の伴奏下に大合唱し故國日本へ響けとばかり慶祝の赤誠を爆發させることになつてゐる

電波も奉祝一色
一週間に亙る豪華プロ本極り

輝く二千六百年の紀元節は愈よあすに迫つたが、滿洲電々放送部では一週間に亙り豪華な慶祝プロをAKから中繼、電波によつて四千萬同胞と共に曠古の佳日を壽ぐことゝなつた、先づ式日當日の十一日は午前七時十分官幣大社霧島神宮からの紀元二千六百年式典及び高千穗靈峰の森嚴な御來迎實況の中繼にはじまり同九時新京忠靈塔前から慶祝大會の實況と慶祝の時間の告示をなし日滿一德一心のよろこびをマイクに氾濫させるが、引續き午後一時靖國神社建國祭陸上式典、同二時橿原神宮の紀元節祭の實況を放送し

紀元二千六百年懸賞募集曲入選序曲發表(三時)兒童の實感「橿原神宮にお詣りして」(六時)日比谷公會堂の紀元節奉祝會場から米內首相、近衞公の記念講演(六時廿五分)國民歌謠入選發表五曲(七時)詩吟「曉に高千穗の峰を望む祝賀の詩」大麻博(七時五十五分)朗讀「御東征物語」中村茂(八時八分)更に八時二十五分からは宮城道雄社中の邦樂曲紀元二千六百年奉祝箏曲、淸元志壽太夫連中の常盤津、淸元志壽太夫連中の淸元、杵屋佐吉連中の長唄等終日を奉祝の電波で埋める

ほかに一週間に亙り慶祝プロを放送し十二日からは隔日毎に午前十時二十分からの時局家庭講座として五回にわたり新京友の會幹事安盛弘子女史らの講演、また

十三日は夜八時二十分から九時四十分まで現地各放送局を總動員した興亞交驩放送に臺北、京城、北京、南京に伍し新京も參加春汀新樂社による大陸色たつぷりな「滿洲新樂」を荒井アナウンサーの紹介によつて十五分間放送、十五日には夜八時奉天から名和啓童師社中の新日本音樂、十七日夜には八時から某音樂團體の吹奏樂初演奏も企圖されてゐる

彈力性ある綜合判斷
中等入試方針
內申偏重を避く
不具者でも入學可能

日系小國民の惱みの種である中等入試は駐滿大使館教務部のうれしい親心による七校新設、八十%進學可能の心やりに窄き門を心もちゆるやかにしながら來る十五日願書を〆切るが、今回はじめて實施される入試全廢の建前を有效にさせるため同部では中學教諭による各小學校間の實力調査と小中學校の兩內申委員會設置を以てする三段構への考査方法を採り遺憾なき考査を期してゐるが

當落を決する學力、體位素行の三者の綜合判斷については特に愼重な態度を持し入試全廢の根本趣旨たる體位と內申による學力とを如何に評價するかを命題に種々檢討の結果、具體的數字による評價標準を定めず考査の當事者である中學校長の綜合判斷に一任することに決定した

これがため體位に缺陷あれば入學不能の日本と異り譬へ不具者でも優秀な學力を有する者は入學は可能であり、入試全廢に伴ふ弊害として一般に臆測された內申偏重は全く杞憂となり彈力に富んだ綜合判斷が行はれる譯である

半島志願兵
初の行賞

【東京國通】陸軍特別志願兵として聖戰に參加し名譽の戰死を遂げた李仁錫上等兵は今回の行賞に當り功七旭八を授賜され半島志願兵最初の光榮に浴した

同上等兵は忠淸北道沃川郡西面出身で昭和十三年十二月一日特別志願兵として入營、十四年五月北支に出征山西省灣山村附近の戰闘に參加、同村西方高地攻擊に際し第一線部隊の一員として率先部隊の先頭に立ち同高地を占領確保した、併し優勢なる敵は三方面より猛烈な銃火を集中、薄暮に至るや敵は更に逆襲に轉じ一擧に山頂の奪回を企圖し猛烈な敵彈のため全山火の海と化したが同上等兵は敢然と起ち勇戰忽ち數敵を殪した時敵彈のため壯烈無比な戰死を遂げたものである

なほ關東軍囑託として今次事變勃發以來三江省にあつて挺身共匪宣撫工作に當つてゐた半島出身の金東漢氏も匪團の襲擊を受けて壯烈な戰死を遂げ旭六を授賜された

"平和の鐘"放送

紀元二千六百年の紀元節祭をトし平和の鐘の入魂に精進する發願勸進主吉岡行辨師は十一日午前九時奉祝の時間に新京中央放送局から「平和の鐘」に付て放送する

發車直前まで申込み受付け
永沼挺進隊參拜團

既報新京長勇會、新京驛、ツーリストビユーロー主催在郷軍人會新京聯合會、協和會首都本部、國防婦人會首都本部、本社後援の日露戰史の精華として武勳不滅に輝く新開河鐵橋爆破の壯擧を敢行した永沼挺進隊の偉勳を偲び壯烈華と散つた田村、望月兩勇士の靈を弔ふ慰靈祭は愈よあす一億國民の感激に湧く悠久紀元二千六百年を壽ぐ十一日紀元の佳節、現地河畔に於て永沼挺進隊塞碑參拜團によつて盛大に執行するが、この日參拜團の利便を圖つてかねて準備された臨時列車は新京驛發午後零時二十五分歸着午後三時十四分である

尚參拜者に對しては列車發車まで當日驛に於て申込みを受付けると

遠征組も交る賭博常習團檢擧
車座の過半數は女

十日午前四時四十分頃中央通署直轄所員が管內を警邏中、平安町一ノ一中村サト(五一)=假名=方で十數名が車座となつて花賭博に熱狂してゐるのを探知し直轄及び宿直署員の應援を得て踏込み狼狽する中村サト他十三名(女八名男六名)を珠數繋ぎに檢擧、場錢二十圓並びに花札三組を證據品として押收した

目下司法係で取調べてゐるが、わざわざ奉天から遠征して來たもの五名(男三名女二名)で彼等は一家の主、後家さん連中の中年者ばかりの滿鐵社員、小間物、染物商、建築業者で退屈しのぎの行爲とみられるが奉天遠征組を加へて三組が大車座をなしてゐた點から一定日時を限つて開帳してゐる常習犯ではないかと追及してゐる

奉祝の氣漲る國都

神宮スキー大會第二日成績

【高田國通】高田金谷山に於ける男子青年學校府縣對抗並に陸海軍人競技、在郷軍人競技の結果次の通り

△青年學校府縣對抗 1新潟縣五〇分二四秒〇 2長野縣五二分一五秒〇 3岩手縣五七分〇八秒〇 4京都府五八分二七秒〇 5北海道一時間〇〇分四〇秒

△在郷軍人競走 1吉田長吉(高田)五一分一八秒 2關松治(高田)五一分一八秒 3清水政治(高田)五四分四〇秒 4丸山正直(高田)五五分〇五秒 5阿部(高田)五八分〇六秒 6峰本(新發田)一時間一三分〇七秒

△陸海軍人傳令競走 陸軍部隊=1宮本部隊(栗原、佐藤)五一分五九秒 2今村部隊(村井、佐藤)五五分五九秒 3長谷川部隊(長田、伊藤)五八分五二秒 4黑澤部隊五八分五九秒 5鶴岡部隊五九分五五秒 6印南部隊一時間〇五分二八秒一、海軍部隊=1大湊要港部(岡本、伏見)五九分〇三秒 2舞鶴鎭守府(櫻井、岡田)一時間〇分四〇秒 3大湊要港部(平野、齋藤)一時間〇分四八秒

△陸海軍人斥候競走 海軍部隊=1大湊要港部(小笠原、佐藤、津田、岡本、米本)一時間一八分三一秒(實際所用時間一時間二一分三二秒=三發命中) 陸軍部隊=1長谷川部隊(南、阪田、高田、丹野、名雲)五九分四四秒(實際所用時間一時間一〇分四四秒=十一發命中) 2宮本部隊(佐藤、森、桑原、河野、佐藤)一時間六分五五秒(所用時間一時間一二分五五秒=六發命中) 3印南部隊 4今村部隊 5栗原部隊

あす(十一日)

▲紀元節國民慶祝遙拜午前九時
▲紀元節慶祝式典午前八時五十分於忠靈塔
▲大使館拜賀式 於參事官官邸午前十一時
▲滿鐵新京青年隊結成式於新京支社
▲紀元節奉祝滿鐵新京武道大會於京商道場午後一時
▲永沼挺身隊殉慰靈祭於新開河午後零時出發

歷史 ▲憲法發布(明治二十二年) ▲金鵄勳章創設
▲十方春、建國祭 憲法發布(明治二十二年) 金鵄勳章創設

今晩の放送

▲七・三〇(東京)國民歌謠「奉祝國民歌紀元二千六百年」獨唱四家文子 ▲七・四〇(東京)講演 ▲八・〇〇(東京)嚴嚢鍛鍊(錄音) ▲八・一五(東京)寄席中繼「飽のし」古今亭志ん生

錦ケ丘高女の紀元節音樂會
多彩なプログラム

錦ケ丘高女では二月十一日紀元節をトし午後一時より同校講堂において慶祝音樂會を開催するが、プログラムは左の通り

＝第一部＝
一、合唱　一年全體「婦人從軍歌」奧好義作
二、ピアノ獨奏　一年瀨田博子「イ長調ソナタ（第一樂章）」モツアルト作
三、獨唱　四年坂本春枝「聖母マリア」マスカニ作、伴奏同中村瑛子
四、ピアノ連彈　高音部四年瀨田綾子　低音部同佐藤富美「ポロネイズ」
五、合唱　二年全體「いろは歌」信時潔作
六、ヴアイオリン二重奏　高音部三年　靑木玲子、低音部同新野政子「アレグロモデラード」
七、ピアノ獨奏　二年伊藤由里子「ポロネイズ」ショパン作
八、混聲合唱　職員生徒「ホーマン作」

＝第二部＝
九、合唱　三年全體　イ「夜の前」ボルテマンスキー作、ロ「輝く朝」山田耕筰作、伴奏四年高橋敏子
一〇、ヴアイオリン獨奏　イ「母國を懷ふ」滿洲唱歌より、ロ「やまと少女」山田耕筰作
一一、合唱　伴奏四年瀨田綾子　四年岩瀨光子「メヌエツト」ボツケリー作
一二、ピアノ獨奏　敷島高女二年生全體　三年鶴來滋子
一三、獨唱　四年全體　「ロンドキアプリチオ」メンデルスゾーン作
一四、獨唱　四年三宅良子　一愛國行進變奏曲一「遙かなるサンタルチヤ」マリオ作、伴奏同飯島茂代
一五、ピアノ獨奏　四年中村瑛子「パセテツクソナタ（第一樂章）」ベートーヴエン作
一六、合唱　三・四年全體「紀元二千六百年に寄す」

劇團、樂團も協力
開拓地乘出し
躍進文化の尖兵

【東京國通】滿蒙開拓の躍進に對し開拓地の文化面は從來動もすればピツチが合はず貧しい狀態にあるが、最近關係當局や文化團體によつて漸く開拓地文化建設が眞劍に考慮されるに至つた、開拓總局、拓務省、滿拓公社では舊臘來開拓民に心の糧を送る方策について大陸開拓文藝懇話會、農民文藝懇話會等の文化團體に諮つた處兩懇話會でももとより關心を以てゐることとて積極的に乘出すことになり更に劇壇、樂壇方面も協力することとなつて、極寒酷暑一望千里の曠野の中の開拓村へ文化の潤ひが今後どしどしと注ぎ込まれる即ち文藝においては前記兩懇話會が中心となつて大陸向けの作品に力を入れ、演劇方面ではこの作品を出來るだけ多く上演し音樂界でも文壇、劇壇に歩調を合せることになり又上演したものの內で開拓民の手でも樂しめる演劇は大陸へ持つて行つて作家、俳優、音樂家等が手に取つて指導しようといふのである

こうした文化團體の熱意は第一歩として開拓民搖籃の地ともいふべき內原訓練所に先づ目を向けて、この十四日渡滿する義勇軍六百名（十四年度四次）の壯行會に新協劇壇の長田秀雄、俳優の井上正夫、文化評論家淸水幾太郎、音樂家吉田晴風農民文藝懇話會丸山義二、大陸開拓文藝懇話會近藤春雄氏等が參列して義勇軍の生活や訓練或は靑少年の開拓魂に觸れることになつたが、これ等文化團體は今後自ら大陸に渡り文化建設に協力しようといふ意向もあり關係當局を喜ばしてゐる

▽▽雪割草△△

東寶映畫、寶塚少女歌劇生徒の出演する映畫であるが、新京ではどれだけの魅力があるかは疑問である、白井鐵造の企畫により京都伸夫が脚色、松井稔が演出する、或る女學院、そこで學業に勵む少女が突然父の死によつて悲境のどん底に叩き込まれるが、やがて父の恩顧をうけた富豪の手で幸福の日が再來する―東寶千鶴子、櫻町公子が主役を勤める、帝都キネマ十三日封切

万華鏡

君の生れは何處？と聞くと朗らかな聲で「本所二丁目の糸屋の娘」と歌ひ出す大新京の樋口クンは男に對して實に恬淡とした氣持で接するひと▼ある日の午後のこと、店へ樋口クン宛に電話が掛つて來た、曰く「僕は〇〇ですが是非お茶を共にしてお話し仕度いと思ひます」ところで樋口クンどう考へても〇〇君と云ふ人はどんな男か見當がつかずまあ物は試しと指定された茶房へ出かけて見ると居た居た、顏馴染の男が一人で煙草をふかしてゐる▼當分〇〇と云ふ人はこの人かと見當をつけてどかりと腰を下し「貴方電話をかけたのは？」問はれた男は目をぱちくり周章てて「左にあらず」と答へると「なあんだ」どばかり!!〇〇さんとはいかなる男ぞやと颯爽として席を立つて行つた▼國都の若きオサムラヒ方よ!!樋口さんをお好きになつたお方があつたなら、先づ第一番に御自分の姓名をはつきりと彼女に覺えさす事です▼それから同じく大新京の田中さん、華やかなホールから姿を消しました、その田中さんと良い仲だと評されてゐた某社の〇〇君も同時に社から姿を消しました、後は御想像にまかす、彼女のフアンよ、彼等の前途多幸ならん事を祈つてやり給へ!!アーメン

紀昭音

アトラクシヨンと「光と影」の帝都キネマ仲々好調な入りである、土曜日三千圓、日曜日日は五千圓を客足は減るのを見せなかつた▼マイクの故障で備まされてゐたらしいが此アトラクシヨン全然バンドで持てゐるやうなもの、表看板の三人姉妹を喰つて終つてゐる三姉妹にとつては悲しむべき逆效果である▼次週は十三日から「丹下左膳」完結篇」と「雪割草」であるが後に「戀人の日記」「春の誘ひ」の洋畫二本立、話題の獨逸映畫「最後の一兵まで」と東寶「秀子の應援團長」の二本立がある、洋畫ファンには嬉しい番組であら▼只「格子なき牢獄」がまだに封切見込みが立たぬといふのは苦々しい話であると、相當値が張つてゐると見える、洋畫不足の滿洲ではの咽喉から手が出る程のものだが、滿映さんもちよつと手が出せないらしい、かうなると內地の人氣も良し惡しである

近藤勇

橋爪彥七　西正世志畫

(百三十六)

友 (一)

若痛を、ぢッと堪へ、勇は、仰向けに寢たまゝだつた。

しんしんと、間斷なく痛む肩の傷が腕を附け根から切つてしまひたいほどだ。

——手當が屆かぬといかぬ。

といふので、本陣から、この大阪城に移されて來たのだが、痛みと無聊とで、とても堪まらなかつた。

かうして、大きな部屋にたゞ一人で居ると、紛れるものがないだけに、一倍の苦しさなのだ。

瞑つてゐた眼を開けると枕頭に、若侍が畏まつてゐるのが見える。

『なにか?』

たづねるのへ、勇は、無言で首を振つただけだつた。

時々、部屋の外を、周章ただしい跫音が過ぎて行く。

毎日毎日の會議が、いつも、纏ることもなく續けられてゐる樣子が、若侍達の折々の話で分る。

(なぜ玉砕の覺悟をせぬか——)

勇には、腹立たしかつた誰もが、區々たる己の感情など捨てゝ、幕府の爲に擧つて闘ふべき秋なのだ！

勤王に名を藉りる薩長土肥などは、累々たる死屍——親子兄弟の尊い犧牲を踏み越え踏み越えして肉薄してきてゐるのである。

倒幕！

彼等は、まつしぐらに、邁進して來てゐるのだ——その倒幕といふ大なる主義に向つて。

會津も、桑名も、懸命ではあるが、時の流れが、絶えず、彼等を後へ後へと押し流さうとする。

——瘡れこの傷！

勇は、苛々する氣持で、出來るならば、鎗を、何處かへぶちつけたかつた。

跫音……。

ふと、それに氣を取られると、別た若侍が入つて來て、枕頭に、手を支いた。

『申上げます。只今、棚村樣と仰有る方が御見えになりました』

『棚村?』

眼を開けた勇が、

『通して下さい』

と、太い聲で云つた。

暫くすると、棚村主馬が入つて來た。

見ると——後に、女が從いて來てゐる。

主馬は、いきなり勇の側に坐つて、

『どうだ?』

と、訊ねた。

『うむ』

心持ち勇が微笑すると、女が傍に來て、

『御樣子は……?』

醒ケ井のお幸なのだ。

髮を武家風に結つて、いかにも御新造らしく裝つてゐるが、何處かに媚めいた匂ひが殘る。

天目を捧げて來た若侍は心得て、二人とも次室に退つた。

『逢ひたうて……』

ひと言いつたきり、お幸は、口がきけなくなつてしまつた。勇を見詰めてゐる眼は、もう一ぱいに涙をためてゐるのだ。

『近藤、なんとか云つてやれ』

主馬が云ふと、

『困る』

と、勇は眉根を寄せて、

『此處は、將軍家の居られる城中だ。少しは場所柄を』

『それを云ふな』

と、主馬が微笑して、

『女の身にもなつてやることだ』

お幸が、そつと涙を拭つた。

『拙者が、おぬしの見舞に行くのだと云つたら、近藤見てやれ、これな、夜の眼も寢ずに縫つた着物だ。おぬしに着せるのだと云つてなう』

主馬は、お幸の持つてきた仕立おろしの寢間着を勇に見せた。勇は、ちらとそれを見て、すぐと眼を外らした。

商況　十日前場

海外經濟電報

品目	相場
倫敦金塊	一六八志〇〇
倫敦銀塊	二一片四分一
同 先物	二一片八分一
紐育金塊	三五弗〇〇
同 銀塊	三四仙四分三

▲外國爲替

品目	相場
米英爲替	三弗九八仙四分一
米日爲替	二三弗四七仙
米支爲替	七弗四五仙
英米爲替	[illegible]
英日爲替	一志二片三分七
英支爲替	四片八分五
英佛爲替	一七六法五〇
米獨爲替	四〇仙二〇

▲紐育株式

品目	相場
スチール株	六〇弗四分一
アナコンダ	二八弗〇〇

▲紐育棉花

限月	相場
現物	一一仙一二
一月限	一一仙〇三
三月限	一〇仙七六
五月限	一〇仙四一
七月限	[illegible]
十月限	—
十二月限	—

▲印棉

品目	相場
ブローチ	二七一留比二分一
トームラ	二四一留比四分三
ベンガル	二〇一留比二分一

各地株式市況

▲東京株式(短期)

寄付　大引

[illegible]

▲大阪株式(短期)

[illegible]

▲大連株式(短期)

[illegible]

各地商品市況

▲大阪綿布

限月		
二月限	[illegible]	[illegible]
三月限	[illegible]	[illegible]
四月限	[illegible]	[illegible]
五月限	[illegible]	[illegible]
六月限	[illegible]	[illegible]
七月限	[illegible]	[illegible]
八月限	[illegible]	[illegible]

▲東京人絹

限月		
當限	—	—

▲大阪綿花

限月		
二月限	[illegible]	—

▲大阪期米

限月		
三月限	[illegible]	[illegible]
四月限	—	—
五月限	—	—
六月限	[illegible]	[illegible]
七月限	—	—
八月限	[illegible]	[illegible]

▲大阪人絹

限月		
當限	—	—
中限	—	—
先限	—	—

▲横濱生糸

限月		
當限	—	—
五月限	—	—
六月限	—	—
七月限	—	—

限月		
二月限	出	[illegible]
三月限	來	[illegible]
四月限	不	[illegible]
五月限	申	[illegible]
六月限		[illegible]
七月限		[illegible]
物		—

九星

日曜 甲申 佛滅 破 虚宿　舊正月十四日

東京・本郷・神誠館

● 一白の人 浮かれ氣を抑へ實利を主とし勵めば發展す 丁と艮と辛が吉

● 二黒の人 物事を輕く見るときは意外の失敗を招くべし 坤と南と北が吉

● 三碧の人 行詰らざる前に八方に目を配り用心すべし 甲と癸と坤が吉

● 四緑の人 追々と吉に向へども進み過ぎぬやうすべし 坤と甲と丁が吉

● 五黄の人 運氣靜結して解けず人の誘ひに乘るなかれ 丙と丁と辛が吉

● 六白の人 徒らに奔走するよりも氣を養ひ時を待つべし 丁と辛と甲が吉

● 七赤の人 不安に襲はるるとも志を變へぬ樣にすべし 巽と艮と辛が吉

● 八白の人 他人の口論に巻き込れぬ樣すべし失物注意 坤と巽と辛が吉

● 九紫の人 一時の不平はあるとも午後は大吉なるべし 乾と北と巽が吉

大正九年十一月十四日第三種郵便物認可

新京日日新聞　朝刊

【本紙朝夕刊十二頁】

發行所　新京日日新聞社　新京永樂町四ノ一　電話三・二五・三三〇〇
發行人　十河榮忠
編輯人　和波[illegible]
印刷人　水越内之介

仰ぐ肇國の御鴻業

八紘一宇

悠久二千六百年

けふ・紀元の例、節祭御儀

滿洲國民代表盛典に參列

一億蒼生が待ちに待つた悠久二千六百年の十一日紀元の佳節、國都の慶祝行事は午前八時五十分忠靈塔前に於て義勇奉公隊を主體として青年團、協和會分會その他各種團體約一萬五千名參加の下に擧行する「慶祝式典」をトップに繰り展げるが午前九時を期して市内各所のサイレン、汽笛は一齊に咆哮鐘は打ち鳴らされ感激の國民奉祝時刻を告知するこの一瞬、一般家庭はもとより、街を流れるバス、自動車、馬車、人力車も停車乘客は下車し、通行の人々も停止し全市民一齊に皇居帝宮を遙拜、竹の園生の彌榮えを祈り奉ると共に東亞聖業の完成を祈願し、關東軍司令部をはじめ市内各學校では嚴粛なる紀元節式典が擧行される、尚午前十一時からは大使館參事官々邸に於て遙拜式を擧行されるが市民の多數參加を希望してゐる

【橿原國通】悠久玆に二千六百年一億蒼生が待ちに待つた輝やく紀元の佳節、畝傍山の翠緑偏へに色濃き聖地橿原の御前に聖帝の御神德を敬仰、肇國の御鴻業を偲び奉る紀元節例祭並に紀元節祭の兩儀がいと神嚴壯重に齊行される、東に多武峰、西に金剛、葛城、南に吉野連山をのぞみ、北に大和盆地を見、遙かに神祟の宮居は仰ぐも畏く神殿はじめ各社殿は隅々まで淨め瑞色いやたかく神々しさいはん方なし

この日まづ午前九時より䕃田宮司以下神職奉仕、祭典を執行され淸祓に次いで勅使室町掌典參向、奈良縣内有資格者參列、例祭奏樂裡に獻饌、宮司祝詞奏上、勅使御幣物を奉り御祭文を奉じて撤饌、十一時終了、引續き午後二時から大祭式に依る紀元節祭に移り供進使三島奈良縣知事參向、御幣物を奉つて祝詞奏上、内閣代表下條賞勳局總裁以下各省代表、帝國在郷軍人會會長井上幾太郎大將、貴族院副議長佐々木行忠侯、全國神職會長水野錬太郎氏等全國官民代表者三千名のほか盟邦滿洲帝國代表司法部大臣張煥相氏以下隨員を從へて參列し、四時すぎ滯りなく盛儀を終了する豫定である

一方畝傍御陵では勅使九條道秀公參向、午前十時から山陵祭が執り行はれ、また十一時から神宮外苑運動場で奈良縣主催の建國祭があり縣民代表學童、生徒、團體等一萬人參列、知事の宣誓文朗讀、奉仕隊旗授與の後、一同建國體操を行ひ晝食後、旭日に八咫の烏を配した奉仕隊旗を先頭に奉祝大行進を起し神宮に參拜、野外公演では京阪神合唱聯盟千三百人の奉納演奏、また橿原神宮と春日神社を結ぶ奈良縣下中等學校生徒、青年團の聖火奉納競爭、奈良若草山の山燒き等神賑行事が豪華に繰展げられ千載一遇の佳節を祝ひ奉ることとなつてゐる

神武天皇御尊像

木盃御下賜

【東京國通】光輝ある紀元二千六百年の紀元節畏き邊りでは特に重臣顯官を始め勅任待遇以上並に貴衆兩院議員等約七千名に對し御紋附木盃御下賜の御沙汰あらせられ宮内省から左の如く發表された

今般神武天皇即位紀元二千六百年記念として昭和十五年二月十一日現在の宮中席次第三階第廿七以上の者及び貴衆兩院議員等に對し天皇陛下の思召しをもつて御紋附木盃を下賜の旨御沙汰あらせられた

紀元節奉祝 上奏書を捧呈

阪谷男、日米通商問題衝く　貴院本會議

【東京國通】十日の貴族院本會議は午前十時十七分開會

一、條實孝公(火曜會)紀元二千六百年の紀元節に際し上奏書を捧呈したい旨の動議を提出し全會一致可決、議長の手許で謹作せる草案を松平議長朗讀總員起立して可決、ついで

一、大正十一年法律第五十二號中改正法律案(政府提出)

を上程委員附託としたのち前回に引續き國務大臣の演説に對する質疑に移る

阪谷芳郎男(公正) 廢棄の通告手續きはあまりにも突然で儀禮を缺き支那事變遂行の牽制であると思はれる、わが方の公正なる事變目的を眞に理解せしめるため胸襟を開いて誤解を解く必要がある、而して新條約の成立を早め親善關係を促進せねばならぬ、それがためには永續的な條約を締結して世界平和に貢獻せしめよ、つぎに對ソ交渉については樂觀してゐる向が多いやうだが自分は樂觀的材料を多く耳にする、對ソ交渉を進める政府の態度意向如何

有田外相 條約廢棄の通告は突然で不滿の聲が國民の間に滿ち充ちた、廢棄の理由は揣摩臆測を許されないが支那事變を續けて日米間の諸問題解決に資せんとする事もその理由の一つと思はれる、要するにわが方の眞意を諒解しなかつたのが眞相であることは疑ひなく政府のみならず國民全般も共に眞意闡明に努めねばならぬ、來るべき新條約は禍を轉じて福を齎すものとなし將來の平和保障を考へて行くやう努力する對ソ交渉については全然樂觀的といふつもりは全然なかつた、ノモンハンの國境確定委員會は不幸にして意見が一致しなかつたがモスクワにおいて話合ひを進めまた近く組織せらるべき國境確定委員會においては萬全を期したい、仰せの如く樂觀は許さないが悲觀する狀態ではないと考へてゐる

阪谷男 東亞新秩序の意味は明白にされてゐない汪精衞氏の新中央政府は成立しても重慶政權が存立する以上これと對立しまた内亂を起すやうなことがあつては困る、聯省自治か統一政權か熟考を要す、事變處理は物心兩面より圖らねばならぬが今日の國策は枝葉に亘り物心兩方面よりする大輪廓をつくることを考へてをらぬ

米内首相 新中央政府と重慶政權が對立するのはやむを得ないが結局組織分子を吸收することを信じてゐる、現代の支那國民の大部分は新中央政府を欲してゐると考へる、飽くまでも日滿支固有の文化制度を尊重してその融合發展を圖るやう心がけてゐる、經濟的、文化的に三國が有機的關係に立つことは當然であり、そのための根本的對策樹立に愼重な態度をとつて臨んでゐる

兒玉内相 この問題は革新政策の根幹をなすものであるから提案決定次第萬難を排してその通過に努力する、と答へ零時九分散會

優渥なる詔書渙發

恩赦の大權發動あらせらる

【東京國通】畏くも天皇陛下には光輝ある紀元二千六百年記念奉祝當日たる十一日優渥なる詔書を渙發あらせられることになつたので、政府では全國民一體となつて聖旨を奉戴、東亞新秩序建設に向つて邁進するやう同日正午内閣告諭を發することになつた、なほ同日は潤澤を遍く分たせ給ふ大御心から恩赦の大權を發動あらせられるので司法當局に於ては司法大臣訓令を發することになつた

衆議院本會議

【東京國通】十日の衆議院本會議は午後一時廿三分開會、小山議長起立して紀元二千六百年祝賀上奏書捧呈に關し明十一日は神武天皇御即位より悠久實に二千六百年の佳節に當るので皇祚の無窮天壤と共に愈よ榮え御聖德四方に輝くを拜し奉り一億國民と共に眞に欣喜に堪へざる次第であります、玆に本院はこの光輝ある記念日に際し慶祝の意を表するため上奏文は起草委員を設けこれを起草せしめる、その委員は議長において指名することに致したいと諮り委員を指名し一旦休憩、午後二時四十八分再開紀元二千六百年祝賀上奏文案を上程、起草委員長山道襄一氏(民政)委員會において決定せる案文を朗讀し滿場一致可決、次いで日程に入る

田万淸臣氏(社) この税制改革は阿部内閣の遺産であつて何等の革新性もない、原案の第二種所得綜合課税は徹底的に金融資本に遠慮した官僚と資本家との合作である、第二種所得に對する課税を源泉と綜合との選擇方式を執つた結果、税收は二千五、六百圓の減收を來たし、法人税の税率を百分の二十から十八に修正した結果、これ又五六千萬圓の減收となつてゐる、全般を通じて下層階級に重く、資本家に輕く公平でない、增税の結果物價騰貴を來し豫算の施行が困難となるが政府は臨時議會召集の必要はないか

櫻内藏相 今回の增税は資本階級の負擔に重きを置いてこの一般大衆の負擔を第二義的としたる所得課税の綜合源泉選擇主義をとつたのは金融政策上急激なる變化を避けるためである、財産税は理論上は結構であるが、技術的に見て困難で、また税收も大して期待出來ぬのでやらぬことにした、重要工業の免税は生産力擴充遂行上必要である、戰時利得に對する劃期的增税を斷行せよとのお話しであるが、戰時利得と雖も全部租税として徴收することは出來ない

石坂繁氏(時同) 改正案による税收增加の數字的根據如何、この增税と併行して行政の整備刷新を實行する必要ありと思ふが首相にその用意ありや

櫻内藏相 增税額算定の基礎は國費支辨の必要と睨み合せた結果であつて、東亞新秩序建設の大事業に要する尨大なる國費を要するので公債のみならず租税の增收また已むを得ないのである、政府は豫算施行に當つては一厘一金も疎かにせず充分の戒心を加へる決心である

と答へ質問を終り、國税改正法案卅一件を一括して四十五名の特別委員に附託し五時半散會

衆院豫算總會

【東京國通】衆議院豫算總會は十日午後三時五分開會

由谷義治氏(時同) 現時生産力擴充に對する大きな障碍は將來に對する見透しが樹て難いことであらう、これに對する所信如何

藤原商相 政府としては先づ石炭增産問題の急速な解決を圖つてゐるが、將來に對する見透しに於ても充分考慮してゐる、今後の產業の發展は滿支の資源開發を合せ考へれば前途洋洋たるものがあるから事變が解決しても歐洲大戰後に於けるやうな心配は不要と考へられる、またその心配のないやうにして行くつもりである

三善信房氏(政久) 海軍の明年度豫算に於て五ケ年計畫が樹てられて居り、陸軍でも多額の經費が計上されてゐるが、國防の完璧を期するといふ點に就いて説明されたい

吉田海相 海軍の方は建艦費その他に於て十四年度の計畫に若干追加したものでこれに依つて海軍の國防を全うする意圖に出てゐるのである、併し注意すべきことはアメリカの建艦計畫として第三次ヴインソン案が樹てられてゐることである、米國は昭和九年條約量に達するまでの第一次ヴインソン案を樹て、次いで十三年に第二次ヴインソン案を樹てゝこれを廿%增强したのであるが、昨年十一月第三次ヴインソン案として更に廿五%增强案が傳へられた、現在米國の議會にかけられてゐるものはこれを若干縮少した二ヶ年十六萬七千噸の計畫のやうである、併しわが方としてはこの際差し當り現在の政策で國防上何等の不安を感じてゐない

畑陸相 陸軍の方は支那に於ける大規模な作戰と國際情勢の變化に應じて既定經費に修正を加へたものであるか、これは三、四年の情勢に應ずる差し當りの軍備計畫で、これで全貌とはいへない併しこの計畫をもつても陸軍として最善の努力を圖る

これを以て三善氏の質疑を中止、次回に持越すことゝして午後六時廿分散會

懲罰委員會

【東京國通】衆議院の第四回懲罰委員會は十日午前十時二十分より開會、特に出席せる小山議長より去る三日の本會議において行つた懲罰宣告に補足的説明を加へ之に對し中井委員長、各委員より質問をなし同十一時半散會した、次回は來る十三日午前十時より開き齋藤隆夫氏を喚問する豫定である

けふの兩院休み　【東京國通】十一日は紀元節につき貴衆兩院とも休み

海鷲江西省に進入

敵航空基地を中心に猛爆

【上海十日發國通】支那方面艦隊報道部十日午後四時發表＝

一、九日海軍航空隊の精鋭は江西省奧地深く進攻し敵前線航空基地潰滅の目的を以て吉安及び州の軍事施設を爆擊、何れも多大の戰果を收め全機無事歸着せり、即ち中村大尉の指揮せる部隊は同日午後二時頃敵の猛烈な高角砲火を冒し吉安飛行場上空に突入、滑走路を中心に全彈を集中、これを全面的に爆破せり、又奥山大尉の率ゐる他の部隊は同州飛行場に達したるも同飛行場は破損のまゝ放置せられあるを以て江岸の敵舟材料庫並に軍需品倉庫群を爆擊、うち五棟を完全に爆碎せり

二、舟山列島警戒中のわが艦艇は八日舟山東南方六横山島に陸戰隊の一部を揚陸し定海縣抗日自衛團急襲敵約百を擊退、銃器彈藥を多數隠匿せる同本部を壞滅に歸せしめ且つ附近殘敵を掃蕩せり、敵遺棄死體七、鹵獲品は無線電信機械、銃器その他多數、わが方損害なし

愛蘭共和軍反英暴動

【アムステルダム九日發國通】エール(アイルランド)共和軍テロ團員死刑執行は全エール國民を極度に憤激せしめ、種々不穩の計畫が傳へられるためイングランドの將校はエール人に對し非常警戒を實施中であるが九日當地に達した報道によれば

九日ロンドンのデリーメール紙はエール共和軍が近く戰時會議を開催し英國に對し報復的テロ行爲を展開すべくその範圍は當にアイルランドのみならず英國その他の地方にも及ばしめんと計畫してゐる旨報じて居り又一方暴動計畫明細書を所持する一エール人は警戒網をくゞりロンドンに潛入したが英國官憲に捕はれたといはれる

新民會を改組

新機構により民衆工作

【北京十日發國通】昨年十二月再生の途に就いた新民會はその後政府成立二周年記念、青島會談等にとりまぎれ下部機構の改革を延期してゐたが、この程政府、軍、興亞院の諒解成り愈よ近く新民會、宣撫班を統合し發展的解消しこの兩者を統合した新しき組織の下に積極的民衆運動に乘り出すこととなつた

即ち新機構は從來の新民會、宣撫班を解消し兩者を平等の立場において統合、更に各省長、縣長、縣連絡員をも包含し中央並に地方の組織を整備せるもので、會の名稱は中華民國新民會となるものと見られてゐる

而し統合後の宣撫班は中央組織の變更を見るが、前線に活動してゐる現組織は急速に改變せられず、名稱のみを變更して當分現狀が維持せられることになつてゐる、新中央政府の成立も目前に迫り本格的飛躍時期に入つた華北の民衆工作は新民會の改組によつて目覺ましきものがあると期待されてゐる

曠古の聖節を奉讃

大理想に邁進す

臧公の決意新たに　張國務總理謹話

盟邦日本帝國神武天皇橿原の地を相して都と爲し八紘一宇の肇國の大理想を宣布し給ひてより二千六百年本日玆に曠古の大典紀元の聖節を迎ふるに當り遙かに神祖の遠猷を拜し恭しく神武建國の大業を偲び皇統の連綿彌榮を壽ぎ奉ると共に日滿一德一心の大義を奉し四千萬國民謹んで萬代不壞の大理想顯現に邁進することを盟ひ奉る

惟ふに神武天皇即位の大典を擧げさせ給ひ上は則ち乾靈國を授けたまふの德に答へ、下は則ち皇孫正を養ひ給ひし心を弘めん、然して後に六合を兼ねて以て都を開き八紘を掩ひて宇と爲さん、亦可ならざらん乎と御詔勅に仰せられ萬世一系の國基を確立せられ、以來國運日に進み悠久二千六百年今や國威四海に布き興亞の皇業その緒につき「安國と平けく治ろしめす」の御理想の實現を見つつあるは偏へに皇祖の御加護によるものと洵に恐懼感激に堪へぬ次第である、我國建國漸く八年建國の大理想を盟邦肇國の大義に則り日滿一德一心友邦の仗義に依り今日の盛運を觀るに至る「遼ぱくの地、猶未だ王澤にうるほはざる」の地に天業を恢弘し給ふ天意に基くものにして王道滿洲國の建設日にその成果を擧げつつあるは洵に欣快この上もない、世界の現勢を大觀するに西歐の天地暗雲低く垂れ、戰火日に繁く物質文明の凋落廢頽の觀一入深きものあり然るに東亞の大勢は旭日燦として光宅し王道精神漸く遍からんとし新秩序の實現に巨歩を進めつつあるを見る、紀元二千六百年は即ち東方道義の勝利を高らかに宣言するものにして日滿兩國民を擧げて慶祝奉讃の誠を披瀝すべく、謹みて四千萬國民奉公の決意を新たにし日滿一德一心以て友邦の仗義に應へ奉ることを期す

輝く平和の曙光

一德一心の本義實踐へ　星野長官謹話

悠久二千六百歳、皇統連綿として金甌無缺、燦然として内外に光被する盟邦大日本帝國の曠古の盛典に際會して、遙かに神武建國の皇業を仰ぎ奉るとともに洪範を紹述發展せしめられた歷代天皇の遺烈を想ひ、日本皇室の彌榮を衷心より壽ぎ奉る

今や興亞建設の聖業は着着としてその緒に就き、聖戰玆に四年、前線百萬の皇軍將兵は全支に轉戰御稜威の光六合に布き、東亞永遠の和平の曙光燦として輝き初めてゐる、一方西歐諸國は戰亂の渦中に投ぜられ民衆は塗炭の苦しみに呻吟し盛衰興亡の關頭洵に逆賭を許さざるものがある、この歷史的時期に際會しわが滿洲國に課せられた責務は益す重且大なるものがあるが愈よ建國の精神を顯揚し四千萬蒼生よく和合統一、日滿一德一心の本義を實踐するの決意を新にしなければならぬと思ふ、玆に謹んで紀元二千六百年を慶祝し奉るとともに聖壽萬歲を壽ぎ奉るものである

無上の光榮

橋本協和會本部長

神武天皇が八紘一宇の御聖詔を發せられて皇祖の天業の恢弘あらせ給ふて以來悠久實に二千六百年、友邦大日本帝國は地球の一角にその金甌無缺なる聖姿を保全して光輝ある歲月を積んだのであるが、誠に神意宏大恩ふだに無限の感激を覺ゆる次第である、日本はその肇國以來大國難に遭遇する每に常に新たに皇祖の神意を回仰し之を體し即ち肇國精神に復りて次々と國難を克服しつゝ飛躍の一路を辿つたが、此の日本の歷史を靜かに眺める時畏くも八紘一宇の御聖詔が如何に崇高偉大にして凡ての宗教哲理を綜合し超越した無比絶對のものであるかが體驗的に理解されるのである、皇祖の御垂訓は天壤と共に窮まりなく常に新たに常に正しく而して常に溫かく地上萬物の上に在る、此の御精神の東亞の地に恢弘せられたるものが滿洲建國であり、新支那の新らしき胎動である、即ち所謂東亞新秩序建設運動の進展であるのであるが、之は歷史の必然として起きて全東亞から全地上へと發展すべき運命を有つて居る、而して現在之を翼賛し奉るの光榮を有する者が日滿一億四千萬の國民である譯であり、此の光榮は恐らく地上二十億の人類が有する如何なる光榮を以てしても比肩せられぬ最上最大のものである、興亞聖戰下に意義深き日本紀元二千六百年の紀元節を迎へて感激に堪へず、一言寄せて慶祝の辭とする次第である

大和繪を贈呈

紀元二千六百年の紀元節にあたり奉祝のため本紙附錄として大和繪の細川護久畫伯が麗筆を揮つた蓬萊山の屛風をうしろに鶴龜を舞ふ少女の圖を月極讀者に贈呈しました

社說

意義深き紀元節

[illegible]…舉り國運永へに隆昌ならんことを禱るのである。

本年が日本紀元二千六百年に當るが故に、國をあげての慶祝行事が展開されてゐる。日本と不可分の堅き關係に立つ滿洲國においても言ふまでもなくこれに呼應し、各種の日本に於ける行事に代表を參加せしめるとともに、また滿洲においても種々の企畫を實現することゝなつてゐる。そしてそれは單なるお祭り騷ぎのやうなものとしてでなく、この機會において滿洲國民の日本に對する認識を深めしめることに主眼が置かれてゐるのである。日本の歷史、文化を紹介する展覽會の開催、日本の國史、日本の文化についての著作の出版、日本の各分野についての解說放送等をこゝに數へ得る。まことに今日の機會にこのやうな目的を以てする日本認識徹底のための努力といふことはその價値は大きく評價されてよいであらう。それによつて日滿兩國民の眞實の提携といふことが大いに進められるであらう。百年の後にそれらの事が微笑ましい回顧の資料となることを豫想したいのである。

今日一つの問題となつてゐるのは、新しい東亞の文明の建設といふことであらう。日滿支三國が協力して打ち樹てるべき新しい文明文化はいかなるものであるべきか。それには過去の歷史に遡つて歷史進展の跡を回顧することが先づ必要であらう。曾ても東亞に於ける諸民族の協同は種々の形において行はれて來た。二千六百年の日本史は孤り獨立したものでなく、その內容において大いに調和的、包攝的であつたことを特質としてゐる、然らば新しき東亞の協同も、西歐諸國等においては行はれたこととのない獨自のやり方で行はれ得るのではないか。歷史がそのことを敎へてゐる。回顧は消極的なものとして終つてはならず、それは將來の積極的な構想實踐に生かされる積極的なものでなくてはならぬ。けふの佳節に所感を記し國慶の喜びを深うする。

わが剿滅作戰に 敵遂に守備態勢

二日―九日戰況概要

[illegible]

一般狀況

[illegible]勢の失敗により蒙つた戰力の徹底的消耗を極力補充し再編成せんとする氣配が窺はれる、而してこの一面において敵は新支那中央政府誕生の間近かなるに著しく焦慮を感じわが占據地域の治安攪亂、特に交通、通信施設の破壞を目指すと同時に經濟遊擊隊を增派潛入せしめ交通破壞の遊擊枝隊十數隊と共にその活動を督促鞭撻せんとしつゝある、わが方においては勿論これに對應する萬般の作戰方略を整へてゐる

本週の戰況中白眉は綏遠省方面の大剿滅戰と廣西省賓陽附近の剿滅戰である、前者は北支、蒙疆方面における敵軍の策動根據を全面的に覆滅破碎した點に特異性があり後者は戰鬪の規模必ずしも大とはいはれぬが、世界戰史に稀なる豫想以上の戰果を得て作戰を終了、わが南支軍は目下既に次期作戰に移り奮戰中である この方面における敵軍は文字通り全く支離滅裂、潛入しておいた諜者の報によれば白崇禧、張發奎已の部下軍隊の所在すら未だに的確に判明せず狼狽を極めてゐる、去る一月下旬敵の虛を衝いて敢行された錢江南岸作戰特に蕭山の占據はその後時日の經過と共に敵に愈よ苦痛感を與へた模樣で敵軍首腦部は必死となり[illegible]

北支方面

[illegible]田、平川の各快速部隊は一日拂曉を期して五原攻略の快速進擊を開始し、一方小原、須藤、熊川、江崎、山田、辻各部隊は黃河に沿ひ西方に猛進を開始し早くも一日午後四時には烏鎭を、二日午前十時卅分には五原北方三キロ萬和長に殺到し同日午後狼山、敬生鄕等の重要據點を相次いで陷れた周章狼狽せる傅作義は馬鴻逵、馬鴻賓等の回教軍に救援し或は戰車壕を掘り陣地を增强する等五原防衞に狂奔したが、皇軍破竹の進行を阻止するに由なく三日午前十時わが先鋒部隊は五原縣城東南に日章旗を揭げ、[illegible]を見出さんとしてゐるが、わが軍は更に徹底的殲滅の作戰を進めつゝある

中支方面

イ、浙東方面においては要衝蕭山の占據により寧波方面よりする輸血路を斷たれた敵は時日の經過と共に著しき苦痛を感じつゝあるもの、如く躍起となつて反抗奪回の機を窺つてゐるが、わが鐵壁の陣の前には手も足も出ない

ロ、湖北省京山西北方の大洪山系に殘存する敵に對し宮崎、佐々木、江口、吉岡、有園の各部隊は二月初頭以來一齊に猛攻の火蓋を切り中央直系第五十五師四川軍第百六十二師などを痛擊、白雪の大洪山を血に染めて果敢なる潰滅戰を展開中で、敵の遺棄死體中には第五十五師の團長、營長などが發見されてゐる

南支方面

賓陽附近の大潰滅戰は全く豫想以上の輝かしい戰果を收めて終了、わが南支軍は引續き第二期潰滅戰に移行してゐる、一日那河墟を蹂躪して北進した右翼平島、深堀、中島、牧野、上田、平田、鈴木、野溝、伊場の諸部隊は怒濤の如く賓陽東南方平地の敵側背に進出、一方左翼方面には三木、小縣はじめ田邊、山口、小田、深尾、松田、沖、友野、德澤などの各部隊が南寧＝賓陽道および思隴墟方面の山地から屍山血河の潰滅戰を敢行して敵の右側背に迫り次第に包圍圈を縮小し三日午後六時半猛勇竹園部隊は遂に敵の最大據點賓陽に突入した、坪井、福田、宮守の諸部隊はこれにつゞき息つく間もなく賓陽西南方地區に進出して敵の退路を完全に遮斷し三日賓陽を中心とする大潰滅戰の舞臺は最高潮に達し四日には戰場の最西端は賓陽西北百卅キロの要衝上林縣に及んだ、かくて豫想以上の戰果を收めたわが軍は六日夕次期作戰に移り、渡邊、林、大西、末次等精銳諸部隊は思隴墟方面から名だたる鯨嶮隘路を衝き隨所に殘敵を捕捉しつゝ西北進八日早朝果然南寧北方七十キロの武鳴縣城に進入し大高峰隘より北進する松本、坂田諸部隊と相呼應しこゝに南寧＝武鳴を結ぶ武寧公路一帶も完全に皇軍によつて制壓された

陸軍航空部隊

イ、高田航空部隊は四日西北作戰に協力し惠治成方面の敵を爆擊、四日は百川堡、大灣鎭を、五日は善斛、六日は包頭西南方約四十キロの地點、七日は臨河および鄔河（五原西南方卅キロ）附近の偵察或は爆擊を敢行

ロ、山口部隊も西北作戰に協力し二日萬和長、三日百川堡、善俱、臨河方面四日も百川堡、臨河方面五日は臨河對岸黃家壕等の偵察および爆擊

ハ、栃木部隊は二、三兩日山東省各地の掃蕩戰に協力、四日彰德東南約四十五キロ附近を爆擊、六日山灣附近の海軍陸戰隊の討伐に協力

ニ、河村部隊は三、四、六七日に亘り京山方面の地上部隊に協力、敵情および地形の偵察

ホ、今西部隊は四日七日蕭山附近の偵察爆擊八日は舊正月を期して黃安の爆擊

ヘ、栅橋部隊は二日曇天を衝いて長驅し陝西省最東北端の府谷部落を急襲爆擊、五日更に大擧して府谷およびその東北方を、七日は哈拉寨を爆擊

ト、南支方面の陸鷲石川、田中、平、鈴木、須藤、山、崎原、大森、山田、井上の各編隊は賓陽および武鳴附近の地上部隊の大潰滅戰に協力し連日彈の雨を降らせ赫々たる戰果を擧げた

河北敗殘匪包圍

わが軍三方より攻擊

【保定九日發國通】わが軍の數度に亘る肅淸を逃れ大淸、永定兩河間にあつて秘かに策動をつゞけてゐる賀龍麾下第百卅師の一部ならびに朱占魁匪約三千に對し去る四日徹底的剿滅の火蓋を切つたわが田中、吉田兩部隊は北方より南下進擊の石田、富岡兩部隊と協力、酷寒を冒し或は凍りついた河を渡河しつゝ包圍態勢をもつて逐次これを壓縮中である

即ち去る四日楡垡（固安北方）より行動を開始した石田部隊は張家務朱家務を經て石佛寺附近にて永定河を渡河東西兩紅寺附近の大辛莊（固安西南八キロ）に進出、石家莊附近にて約百の敵を驅逐南北平景鎭に向け進擊中であるが、これに呼應して新城より北進中の富岡部隊は王佐營（新城東北十五キロ）附近に於て大淸河を渡河、反轉して南北平景鎭附近より敵據點毛公寺に向け南進をつゞけつゝあり、これよりさき鄭坊を出發した田中部隊は許庄附近にて永定河を渡河、固安、永淸兩縣境附近を掃蕩しつゝ牛頭鎭を經て南西へと進擊を續け七日早朝より濁流、馬廠、大留、民庄附近の敵を掃蕩しつゝある

一方高田部隊は四日覇縣を出發後田中部隊と密接な連絡の下に快速を以て西進を續け三公庄の敵を一擧に潰滅七日板家窩鎭を經て公家馬頭に向ふ途中午後四時頃孫村（白溝河鎭東方十五キロ）で約一千の敵大部隊と遭遇、激戰數時間の後これを擊退したが、遺棄死體のみにて百八十を下らず、續いて敗敵を追擊中である、かくて南方、東北方及び東方の三方より包圍された白洋淀北方の敵は完全に袋の鼠となり河北の癌といはれるこれ等遊擊匪は刻々潰滅の運命迫りつゝある

重慶政權への首相見解

倫敦政界に一波紋

【ロンドン八日發國通】米內首相が七日の議會に於て汪精衞氏の新中央政府問題に關し

重慶政權が改組、解體して來た場合は之を容れるに差支へないと思ふ、また蔣介石も然りである

と言明したとの報道はロンドン政界に於ても多大の興味を以て迎へられてゐる、イギリス官邊では汪精衞氏の新中央政府成立に關しカー大使が蔣介石の意向を打診したことについては全面的に否定してゐない、併し日支和平問題についてイギリス政府が重慶政權に壓力を加へつゝあるが如き印象を與へることは極力避けんとしてゐる樣子で右に關し次の如く言明した

重慶政權は日本との和平を圖るため汪精衞氏と妥協し得るや否やは重慶政權のみの決定し得る事柄である、而してこの種の提案に對する蔣介石の態度はこれ又既に幾度も明瞭にされてゐるところである

なほ官邊ではカー大使の重慶出發の期日は未定であると稱してゐるからカー大使と蔣介石との會議は未だ繼續中であると見られてゐる

十五年度一般會計 各經費別內譯（大藏省發表）

【東京國通】大藏省では十五年度一般會計歲出豫算總額五十八億二千餘萬圓について各經費別內譯を發表したが、これによるとその首位を占めるものは軍事費廿三億一千萬圓で歲出總額に對して三割九分を示し、前年度豫算に比し金額に於て四億七千六百萬圓、割合に於て二分の增加となつてゐる、なほ軍事費以外の各種經費に於ても行政費、年金恩給等何れも前年度に比し著增を示してゐる、內譯左の如し（單位千圓△印減）

區分	昭和十五年度歲出合計に對する步合	金額	比較增
皇室費	0,000八	四,五00	一
國債費	0,一五0五	九二三,一四0	[illegible]
國債整理基金繰入	0,一五八五	九二三,一三一	[illegible]
年金及恩給費	0,0四九三	二八七,三三三	[illegible]
行政費	0,三0二三	一,七七四,三五九	[illegible]
中央行政費	0,一九九四	一,一六0,三九八	[illegible]
地方行政費	0,0九八一	五七0,九九九	[illegible]
治水費	0,00五九	三四,0八一	[illegible]
補助費	0,0七九三	四六一,九九八	[illegible]
軍事費	0,三九五三	二,三0一,六七一	[illegible]
（內滿洲事件費）	—	—	[illegible]
陸軍費	0,二二八八	一,三三三,八八八	[illegible]
（內滿洲事件費）	—	—	[illegible]
海軍費	0,一六六五	一,0二七,七八二	[illegible]
國庫豫備金	0,0一五五	九0,000	[illegible]
合計	1,0000	[illegible]	[illegible]
（內滿洲事件費）	—	—	[illegible]

（備考）新年度豫算額中本年度豫算額の對照表に組替揭記したもの

米穀需給推算

【東京國通】昭和十五年米穀年度における內地外地を通ずる米穀需給推算に關して從來政府は極力これが發表を差控へてゐるが、九日衆議院豫算總會における松村謙三氏（民）の質問に對し島田農相は左の如き說明を行ひ注目を惹いた

□昭和十五年米穀年度需給推算□（昨年十一月一日―本年十月卅一日）（單位千石）

一、前年度持越米　四、七〇〇

一、推算高　內地＝六九、〇〇〇、臺灣＝一〇、〇〇〇、朝鮮＝一四、〇〇〇

需給總計　九七、七〇〇

一、消費見込高　九五、〇〇〇

一、輸入見込高　一、〇〇〇

一、需給高總計　九六、〇〇〇

一、差引次年度持越し高　一、七〇〇

右の如く次年度への持越高は僅かに百七十萬石に過ぎないがこれに海外輸入高を加へ更らに節米運動が奏效すれば明年度端境期における繰越高は四百七十萬石を突破する見込みである

產業組合 保險進出暴露

產組對反產對立激化

【東京國通】民政黨の松村謙三氏は九日の豫算總會席上最近の產業組合行き過ぎの傾向を指摘し目下產業組合中央會首腦部、商工省、農林省の三者間に於て問題となつてゐる產業組合、信聯の保險業進出計畫を暴露する痛烈なる質問を行つて產組の攻勢に對する島田農相の所信を質し同問題は遂に表面化するに至つた而して產組の保險計畫に對しては有馬產業中央會頭の政治的使命としてこれが實現を企圖する所で產業組合法の法規上の解釋に付ても種々議論があり金光前拓相も重大なる役割を務めてゐるため本問題は有馬伯の動きを中心に產組對反產の對立を激化すべく次第に深刻な政治問題化する虞れがあり成行は頗る注目される

島田農相答辯

【東京國通】產業組合の保險業進出に關し九日の衆議院豫算總會に於て松村謙三氏（民）が問責的質問を行つたに對し島田農相は左の如く見解を明かにした

產業組合が指定された活動分野を逸脫しその職分を案ずるやうなことがあれば農林省としてはその監督を相當嚴重にしなければならぬことは勿論であるが、今回の問題に付ても產業組合法に照し萬一違法的な事實があり且つ法規上の疑義があれば適當の措置を講ずる方針で目下これが內容を銳意調查研究中である

農林、取扱苦慮

問題成行注目さる

【東京國通】產業組合中央會會頭有馬賴寧伯の三保險會社買收は產組活動の新方向を示すものとして各方面に一大反響を與へたが、農林當局は最近に至るまで同計畫を闡知せず三社の實權を掌握せる金光庸夫氏より經營變更に關し商工省に對し內示を求める所あつたためこの計畫を知つたもので商工省は保險業者に重大影響ありとして農林當局に嚴重申入れを行ふ所あつた、こゝにおいて農林省は同計畫の全貌を知り事の重大性に極度に狼狽すると共に議會關係を憂慮して有馬會頭に對し同計畫の中止方を要請した、これに對し有馬會頭より

右計畫は農村の實際的指導者たる全國十五萬產組役職員の退職共濟金制度の確立と產組多年の要望でありながら銀行組合法に拘束され實現しなかつた農村保險自家經營を行はんとするものであり、他面信聯の餘裕金運用の一方途を開き兼ねて農村インフレの資金吸收をなさんとするものであつて決して產組は保險部門への積極的進出を圖らんとする意圖より出たものではない

と同計畫の目的內容を述べ諒解を求める所あつたが農林省首腦部も同問題が頗るデリケートなのでこれが取扱方に苦慮しつゝあり、今後の成行如何によつては意外の波瀾を生ずべく成行を注目されてゐる

農村經濟調査

來月中に全滿實施

農產物價格、配給の强力なる統制下に於ける本年度農家經濟の實態を調查し來年度に於ける農產物價格配給等の農業政策立案に資すべく近く產業部では關係各團體と協力農村經濟調查を行ふことになつた、同調查は特定部落の概況につき富農中農、小農、雇農等各層に亘り統制下に於ける實態を中心に調查を行ふもので來月約二週間の豫定を以て左の地域を中心として調查班が派遣せられる模樣である

△豫定地域　松花江沿岸、北滿穀倉地帶、中滿、南滿（海城、蓋平中心）熱河、牡丹江、通化、安東

米國務次官 歐洲派遣

【ワシントン九日發國通】ルーズヴエルト大統領は九日ウエルズ國務次官を英佛獨伊各國視察のため歐洲に派遣することに決定、但し大統領はウエルズ次官が今回の歐洲派遣に際し何等の提案をも行ふものではないと發表した、ウエルズ次官は來る十七日ニユーヨーク出帆のイタリー汽船レツクス號で渡歐する豫定で先づイタリーから視察を開始する筈である

獨、多大の關心

【ベルリン九日發國通】ウエルズ國務次官の歐洲視察旅行はアメリカの歐洲和平斡旋乘出しと關聯し極めて注目されてゐるが、九日ドイツ政府スポークスマンは左の如く語つた

ウエルズ國務次官の歐洲訪問はドイツとしても多大の關心を拂つてゐる併しウエルズ次官の訪歐の眞の目的は未だ判然しないからこれに對し兎や角いふことは尙早であらう

獨、英海岸空襲

【ロンドン九日發國通】九日午前ドイツ飛行機數機はスコツトランド海岸沖に來襲、英國追擊機數機と空中戰を展開したが、ドイツ機のうち爆擊機一機は英國空軍によりフアース・オブ・フオース附近において擊墜されたる旨空軍省より公表された、なほドイツ機は浚渫船を爆擊、船員二名は行方不明となつた、また出漁中の漁船も空襲をうけたが損害はなかつた

輸入麻袋入札

三井、三菱洩れる

滿洲麻袋組合では印度よりの新麻袋輸入に全力を傾ける一方既輸入品の配給にも遺憾なきを期してゐるが去る六日及び九日の兩回に亘り合計二百六十六萬二千枚の新麻袋輸入を決定、輸入麻袋の入札を行つた、入札麻袋二月積百三十萬二千枚三月積百三十六萬枚で內譯を示せば織二百二十六萬枚靑四十萬二千枚であり入札者中には三井三菱が洩れ日淸製油の新顏が見えて居るのが注目される

神吉熱河省農林科長　熱河省農林科長神吉義夫氏はパラチフスで國立病院に入院加療中三日午後八時逝去した、享年三十四、告別式は來る廿四日午後一時より承德東本願寺において佛式で執行される

關東州淺海養殖會社創立

昆布、和布の養殖法を工業化する關東州淺海養殖株式會社（假稱）の創立はこの程關東局の諒解を得て愈よ本極りとなり三月中に創立準備にかゝり新年度より事業を開始する事となつた、右會社は資本金七十五萬圓四分ノ一拂込とし近く設立される漁業組合と協力し海藻及び魚類の養殖を行ひ第一年度に於ては十五萬圓を生產する豫定である、尙株式割當は四十五％を振興會社、五十五％は公募する

紀元節と祭典

建國精神の發揚へ

紀元節とは、云ふまでもなく神武天皇の御卽位の禮を行はせられた月日に相當するを以て、これを一大祝日として寶祚の元始を祝ひ給ふ佳節で、所謂四大節の一である、皇室祭祀令では之を大祭に列し、この日天皇陛下には皇靈殿に於て御親祭の典を行はせられ、御神樂を奏し百官を召して酒饌を賜はるを例とする「元」とはもと「元始」の義であるが又年號のことにも用ひる卽ち紀元とは神武天皇御卽位の元年をその由つて來る起るところとし、その紀元の始まる日なるが故に紀元節と名づけたものである、この祝日は明治五年に始まつたもので、神武天皇が大和國畝傍の橿原宮に御卽位になり四海に君臨し給うた紀元元年一月朔卽ち一月一日に相當する太陽曆の二月十一日に紀元節の御祝宴を行はせられる、その御祝宴に先立ち宮中におかせられては賢所皇靈殿、神殿に於て皇室の祭祀並に同日神宮を始め全國の神社に於て祭祀が行はれる、明治五年十一月十五日太政官布告を以て「今般太陽曆御頒行神武天皇御卽位を以て紀元と被定候に付其旨を被爲告候爲め來る廿五日御祭典被執行候事」と紀元制定の御奉告祭を公示せられると同時に、更に同布告を以て「第一月廿九日神武天皇御卽位相當に付祝日と被定例年御祭典被執行候事」と仰出され、翌六年一月廿九日に皇靈殿に於て祭典を行はせられたるを以て嚆矢とする、同年三月七日正院布告を以て「紀元節」と稱せられ、同年改曆の結果紀元元年正月朔を太陽曆に推步して二月十一日に相當するところから、爾來二月十一日を以て節日とせられ同日紀元節祭を行はせらるることとなつた、なほ當時は皇靈殿に於てのみの祭典であつたが昭和二年十月皇室祭祀令の一部改正によつて賢所皇靈殿、神殿に於て祭典を行はせられることとなつた、皇室祭祀令による紀元節祭は大祭とせられ御親祭遊ばされるので當日天皇陛下には午前九時卅分御禮拜御告文を奏し給うて入御になり次いで皇后、皇太后、各皇族の御拜がある、參列員は文武高官有爵者優遇者で御親祭の時は勅任待遇までといふことになつてゐるなほ正午より午後三時半まで有資格者の參拜が許される、當夜は賢所御神樂の儀に於て準じて皇靈殿に御神樂の奉奏があるがこの時も陛下は御拜になり入御の後御神樂に移るのである、しかし御神樂が終るまでは陛下を始め奉り各皇族方も御寢にならぬと拜承する、また神宮、官國幣社以下の神社に於ては大正三年以來中祭式を以て祭典を執行してゐる、なほ宮中に於ける四大節の際の賜饌は事變下に於ける畏き思召からお取止めとなつた、大正十五年以來紀元節を期して建國の精神を發揚し、世界人類の幸福を增進せんとする「建國祭」と稱する國民運動が全國的に行はれ、更に昭和六年からは別に此の日を期して東京市後援の下に梅の節句を催し、梅花の高潔と氣品とを愛し、併せて建國祭の精神を發揚することが年中行事とされるに至つた

紀元節の感激

參議　直木倫太郎

紀元二千六百年といふ素晴しくもお目出度く華やかな年、わけても大陸への新しき大建設を目指して大きな步武を進むる、いとも勇ましく輝かしいこの年の紀元節を迎へて、たまたまこの未曾有の時に生れ合せて居るといふ私共の仕合せこそは、そも何といふ惠まれた忝けない尊とさ有難さでありませう、過去二千六百年の經過に於て、今日ほど國家に意義ある年はなく、從つて又私共ほど生甲斐ある生命に感激せざるはないでせう、其何もかもが只有難い尊い忝けないと感ずる一念から自らににじみ出る感奮の氣持からこそ、そこに是非共該分の力を捧げて何分の御奉公をと念せざるを得ぬ次第でありますが、とりわけこの滿洲に在りてはこの佳き日を迎へることに於て私共は尙更二重の尊き意義と勇氣とを痛感せざるを得ませぬ、私の專門は建設の方面であるが、それこそは先づ以てこの大きな新しき御國作りの上に眞先かけての力を捧げねばならぬと心得て居る、誰もがそれぞれの立場で、各の力を盡して各の正しき道を强く勇ましく踏み進まねばならない、それには誰もが滿洲に在る限りまづ以てシカと腰を据ゑて落着いてかからねばならないと存ずる

紀元節

燕洋

天地洽てゝ嚴かなりや紀元節

亞細亞地圖壁一面に紀元節

紀元節もの〻尊き古書二三

邊土守る御旗の下の紀元節

南北に戰果全たし紀元節

大地にさやるものなく紀元節

春蘭の鉢置く窓や梅花節

永遠の感激・絢爛たる國都音樂繪卷

奉讃 紀元二千六百年

寫眞説明

1、立錐の餘地なく會場を埋めた聽衆

2、新京軍樂隊の演奏

3、特別出演關東軍軍樂隊の演奏

4、合同演奏の指揮者坂西樂長(音樂院)

5、同山田新京軍樂隊長

6、特別出演新京音樂院聲樂部の紀元二千六百年頌歌合唱

7、海外放送、紀元二千六百年奉祝歌全樂團合同演奏(永らく相反目してゐた新京音樂院と放送局の握手はここに實現、音樂院の演奏は遂にこの日の電波に乘つたのである)

8、新京音樂院吹奏樂部の演奏

紀元は二千六百年 一億の胸は鳴る

偲ぶ建國の御偉業

御東征御親發

神武天皇の御幼名は狹野（さぬ）尊とも若御毛（わかみけぬ）沼命とも、豐御毛沼命とも、また彦火火出見（ひこほほでみ）尊とも申され、御即位ありてから神日本磐余彦天皇（かむやまといはれひこのすめらみこと）と申された、日本書紀に「天皇生れましながら明達、意確如たり、十五にして立ちて皇太子となり給ふ」と見え、天資剛健明達であらせられたから四皇子の季弟を以て父神御在世の間に皇儲と定められた初め日向國に居られたのであるが大八洲のうちを見るに、天孫瓊々杵尊以來三代の皇都は西邊に僻在し、東方の地の皇澤に霑はぬ所もあつてこのまゝ日向に安居を許さない時運となつた、そこで神武天皇は御年四十五にして天業恢弘の緒に就かせらるべく皇兄五瀨命及び皇子達を始めとして群臣を會し東遷の議を開き給うた、東遷は即ち東征の意味を含むもので大要左の詔を下し給うて皇子及び群臣の意見を徵された

昔、我が天つ神高皇産靈神（たかみむすびのかみ）と大日孁貴尊（おほひるめむちのみこと）は、此の豐葦原瑞穗國を擧げて我が天祖彦火瓊々杵尊に授け給ふ、こゝに於て彦火瓊々杵尊は天關を闢き雲路を分け、蹕を警めて西下し給へり、然れども世は鴻荒に屬し、時は草昧に繫るを以て徐ろに正を養ひ此の西偏に治せらる、而して皇祖皇考、神聖にましまして慶を積み暉を重ね多く年所を經たまへり、然るに遼くの地は猶未だ王澤に霑はず、遂に邑に君あり、村に長あり、各々自ら疆を分ちて相凌轢す、之を鹽土老翁に聞くに東に美地あり青山四周す、その中に又天磐船に乘りて飛び降れる者ありと、余惟ふに彼地は必ず天業を恢め弘べて、天下にみちをるに足りぬべし、蓋しくにの中心か、その飛び降れる者は饒速日命ならん、速かに行きて都つくらざる可らず

この會議に於ける仰せの趣は誠に事理整然たるものがあつたので一同は「速かに御實行せらるべし」と詔を贊頌し奉つたので茲に東遷の議が決せられ、直ちに其の準備に着手せられた、その年の十月天皇親ら諸皇子舟師を率ゐて海路東に向はせられ速吸之門に到られたとき一人の漁夫が水先案内となりて筑紫國に到り更に安藝國を經て吉備國に入られた、此處に行宮を作つて高嶋宮と稱し居らるること三年、其間舟師を整へ兵食を蓄へて、一擧にして天下を平定せんと皇師難波之崎に差かゝつたが、奔潮甚だ急にして陸に近づかれずよつて此處を浪速之國（なみはやのくに）と稱へ、道を河内國にとつて草香邑の青雲白肩之津に到られた

皇軍苦難と八咫烏

皇師は陸路河内の東境を南進して大和の龍田に入らんとせられたがその路が狹嶮で進軍する能はず、よりて再び東方膽駒山を越えらるる事となつた處が其の地方に蟠居せる賊魁長髓彦は之を聞き「天つ神の御子達は將に我國を奪はんとするものである」となし孔舍衞坂に之を邀へて相戰ひ、遂に皇兄五瀨命は流矢に中りて肱に負傷をなされ皇師は可成りの苦戰に陷つた、天皇憂ひ給ひて士氣の沮喪せんことを慮られ、軍中に諭さるるに

我は是れ日の神の子孫にして日に向ひて賊虜を征するは是れ天道に逆れり、一旦退きて弱きを示し、天神地祇を禮祭して神の威靈に倚ち、背に日神の御影を負ひその影に隨つて襲ふに若かず、然るときは刄に衂らずして賊虜必ず敗れん、今敢へて進むなかれ

と即ち遠く紀州を迂回して大和を背擊するの計畫を定め舟行して紀伊國雄水門に到つたのであるが、五瀨命は重傷に堪へさせられず叫ばれて申さるゝには「洵に殘念至極である、苟も大丈夫たるもの醜虜に傷けられ之に一矢をも報いずして死せんとは」と言ひ終つて今は陣中に薨去せられた、天皇の御悲嘆限りなかつたが更に海路を紀伊の南角を迴つて大島沖を航し熊野の荒坂津に到られた、途中の海上は風浪殊の外激しく皇舟漂蕩を極めて屢々覆沒せんとする狀態だつたので、上陸した皇軍は疲勞其の極に達し奮ひ起たんの氣力もなかつた、茲に熊野高倉下といふ者があり、ある夜靈夢に感じて皇軍の困憊を知つたといふのである、その靈夢は

天照大神が鹿島の神なる武甕槌命を召されて、我が御子が熊野の惡神どもに苦しめられてゐるから汝往つて援けよと仰せられた、鹿島神は謹みて大命を畏み、私はこの以前葦原中つ國を平定致しました當時の名劍布都之魂を所持して居りますからこの劍を熊野へ差し向け度う存じます、如何でござりませうやと申上げた、すると天照大神は、それが宜しいと仰せられたので乃ち鹿島神は其の劍を高倉下の邸宅の屋根の棟から落して、高倉下をして神武天皇に獻上せしめることになつた

といふのである、高倉下は夢から醒めて見ると不思議にも一振の名劍が床の上に立てられてあるのでこれぞ天つ神の神意に外ならずと畏み奉り、早速その劍を携へて荒坂津に駈けつけ之を神武天皇に獻上した、すると天皇は忽ち睡りから醒められ「我れ意外に長寢してけり」と仰せられて其の劍を受取られると、全軍また皆昏睡より覺めて勇氣百倍し、熊野山の荒ぶる神どもは悉く誅に伏し紀伊國は全く平定した、茲に於て天皇は愈よ大和背擊に出られんとしたのであるが、山中嶮絕にして人跡なく又行くべき路がないので如何にせんと躊躇せらるる所に、適々天つ神のお告げに「嚮導者に遣はさるべし」との靈夢があつた、時恰も八咫もある大きな頭の烏が、天空より翔り降つて來たので、天皇は此の烏の來れるは洵に靈夢に叶へる瑞祥なりと喜び給ひ、即ち八咫烏を山中の嚮導とせられたので、皇軍は難なく峻嶮を越えて遂に大和の宇陀に出づるを得て天皇のお喜びは一方ならぬものがあつた、それだけに皇師の艱難辛苦は誠に容易ならぬものがあつたのである

八十梟帥誅伏

宇陀には二人の魁師があつた兄を兄猾（えうかし）弟を弟猾（おとうかし）と稱した、天皇は先づ八咫烏を遣はし二人に對して「天つ神の御子が御通行あらせらるゝぞ、謹んでお仕へ申せ」と諭し聞かせたのであるが兄猾は何も返答をせず却つて鏑矢を射て八咫烏を追ひ返した、併し其兵が集まらぬので茲に一策を案出した、即ち血原といふ處に大殿を作り、殿に釣天井の如き一種の押壓機を仕掛け、欺きて天皇に仕へ奉るべしと稱し天皇の御臨幸を仰いだのである、このとき弟猾は既に恭順の意を表して召に應じ來りて、ひそかに兄猾の逆謀を奏上したので天皇は道臣命と大久米命の二將軍を遣はして其狀を觀せしめられたるに果して弟猾の奏言せる通りであつたから、二將は兄猾に向つて「汝眞に恭順の意あらば先づ其の殿內に入つて誠意のある所を示せ」と難詰し、劍を拔いて之を殿內に追ひ込んだので、兄猾は自ら作つた押壓機に打たれて壓死した、天皇は一たび吉野を御巡幸あらせられたが宇陀に還幸の後、高見山に登つて國中を瞻望し給ふに國見山の山嶺に八十梟帥が居つて女軍を女坂に、男軍を男坂に置いて皇軍を途に遮つた、更にまた畝傍山を中心として今の高市磯城の二郡に跨れる磐余邑には兄磯城（えしき）弟磯城（おとしき）等が居て皆要害の地を占める爲に皇軍が路を開くことが出來ない、時に天皇は一夜夢を見給ふには「天つ神のお告げに天香山（あまのかぐやま）の土を取り天平瓮（あめのひらか）を作り及び嚴瓮（いつべ）を作りて天神地祇を祭り、且つ賊虜の調伏を祈るべし、かくすれば自から平定に歸すべし」との神諭であつた、よつて天皇は弟猾と椎根津彦の二人を天香山に遣はさることゝなつた、併し道は賊虜の爲に塞がれてゐるので椎根津彦を老爺に弟猾を老嫗に扮せしめ、簑笠を被らせて、その發するに臨んで勅せらるゝには汝らの此の行、一に天業の成否に繫るぞ、克く愼しみ克く努めて、此の大任を全うせよと仰せ付けられた、兩人は大命を畏みて出發したのであるが翼でもない限りは通れぬ有樣なので、椎根津彦は天つ神に祈願を捧げ「天皇この國を定め給ふべくんば行く手の路は自然に開いて私共は無事に任務を果すであらう、若も到底此の國を定め給はざらんには賊は必ず道を塞いで私共の通行を妨げるでありませう」と死を決して進んだのである、然るところ賊共は二人を見て怪しまず、醜い老爺と老嫗とを顧みて冷笑しながら道を開いて與れたので二人は天香山に到り無事にその土を取つて歸來するを得たのであつた、のち天下をお定めになつてから其の土を取つた所を埴安（はにやす）と申されたのである即ちその攜へ來れる埴土（はにつち）を以て祭器を作らしめ天神地祇を祭られて進發せられた、天皇は御進發に臨み此の戰に必勝を期せられたので、左の御製を軍中に示し給ひ、大いに士氣を鼓舞せられた

神風の、伊勢の海の、大石にや、いはひ纏へる、下臣（しただみ）の、吾子（あご）よ、吾子よ、下臣の、結び纏へり、擊てし止まむ、擊ちてし止まむ

大石は國見山に喩へ、結び纏へるは山中に蟠居するを謂はれたもので、國見山は伊勢の國境に聳えてゐるから神風の伊勢と申されたのである、即ち進んで國見山の巨魁八十梟帥を討たれ其の巨魁を斬獲せられたのであつた、然るになほ餘黨の土蜘蛛が多數あつて夫れも八十梟帥と稱せられてゐるので、道臣命は密旨を奉じ土蜘蛛の八十梟帥を招じて盛大な酒宴を催し、豫て選定せる八十八の強者をして杯盤狼藉たるの機を見計つて一齊にこれを塵殺し茲に八十梟帥を誅伏せられた

長髓彦誅伏

而して皇軍の目的とするところは長髓彦を誅伐せらるるにあつて、孔舍衞坂の戰ひ以來天皇の御悲憤に堪へさせられざるところ、皇兄五瀨命の薨去に對して一日も早く御冥福を完了し給はんことを期せられたのであるから、天皇は全軍に令して御製の左の久米歌三首を授けられた

みづみづし久米の子等が垣もとにうゑしはじかみ口ひゞく我れは忘れず、擊ちてし止まむ

みづみづし久米の子等が粟生には韮一本そねがもとそね芽つなぎて、擊ちてし止まむ

この御製の意は五瀨命の薨去に對する痛恨の情を含まれ彼れ長髓彦を擊破せずんば已まじと仰せられたものと拜せられる、そこで本營を忍坂邑（おさかむら）附近に置かれ兵を放つて急に攻められたのであるが、長髓彦も亦その兵を進めて力戰し、皇軍しばしば利あらず形勢甚だ憂ふべきものがあつた、時は恰も十二月天忽ち雪を飛ばし氷雨を降らせるといふに、金色燦然たる一羽の鵄が天空より舞ひ下つて天皇の持ち給へる弓弭に止まつた、その光は宛ら電火の如く照り輝き長髓彦の軍卒は之がために皆眩迷して再び戰はんにもその力を失つてしまつた、これに乘じて天皇は令を下して急に進擊せしめられたが、この時長髓彦は使者を皇軍に遣はして

曩に天つ神の御子饒速日命が天磐船に乘つて天降り給ひ、吾が妹を娶つて皇子さへも生ませられたので、吾々ともは君として仕へ奉つてゐるのであるが、天つ神に兩種あらう筈がない、然るに何事ぞ、今又天つ神の御子と稱して此の國を奪はんとす察するに其の天つ神の御子といふは僞稱ならん

と申入れた、天皇は之を聞召され勅せらるるには

天つ神の御子は多數なるぞ、汝等が君とする所の者が眞に天つ神の御子ならば其の證據となるべき品があるであらう、先づそれを提出せよ

と仰せられた、そこで長髓彦は又使を以て饒速日命の天羽羽矢（あめのはばや）と步靫とを持參せしめたので天皇はそれを御覽になると紛れもなき天つ神の御子の證據物であるから之を御返還になると同時に天皇も其の御所持の天羽羽矢と步靫とをお示しになつたのである、長髓彦は之を拜して且は驚き且は怖れたが、元來頑迷不戾の性質であつたために敢へて改心するところなくなほ逆圖を固守したのであつた、茲に於て饒速日命は遂にその誨ゆべからざるを知り、天皇の御爲めと且は人民の爲なりとて自ら長髓彦を刺殺し、その部下を率ゐて歸順した、天皇は饒速日命の忠功を嘉せられ爾來厚く之を遇せられたのであるが、後の物部氏は即ち饒速日命の子孫で、武士として國家のために忠勤を勵んだのであつた

御大業成る

長髓彦は既に誅に伏したが其の餘黨が尙各地に散在しその勇を恃んで分を辨へず皇軍に抗してゐたので、天皇は餘勢を驅つて夫らの土蜘蛛どもを齊掃し、賊虜全く平定に歸したので、天皇は皇軍を畝傍山の附近に集中せしめられ、左の天下統治の大詔を渙發せられた

朕東を征ちしより茲に六年、天つ神の威靈に賴て凶徒既に戮に就けり、邊土未だ清められず餘妖の尙は存するものあるも中洲の地は復た風塵あることなし、宜しく皇都を恢廓し宮殿を造るべし、今の時運は蓋し屯蒙に屬し民心素朴多くは穴居巢棲を常習とす、夫れ大人（ひじり）の制を立つるや義必ず時に隨ふ、苟も民に利あらば何ぞ之を行ふを妨げん、且つ當に山林を拔き宮室を營み、恭々しく天位に臨み、以て此の蒼生萬民を治め上は即ち天つ神が國を授け給へるの德に答へ、下は即ち天孫降臨以來正を養ひ給へるの心を弘め、然る後に六合を兼ねて都を開き、八紘を掩ひて宇と爲さむこと、亦可ならずや、かの畝傍山の東南なる橿原の地を觀れば、蓋し國のもなかか、此の地に在りて天下を治らすべし

と、それより直ちに宮殿の御造營に取かゝらせられ、畝傍山の底つ岩根に宮柱太しき知り、高天原に千木高知りて宮殿の造營全くなり之を橿原の宮と申し奉つたのである

橿原のとほつみおやの宮柱たてそめしより國は動かず

との明治天皇の御製を拜し奉るにつけても、洵に畏き極みである、神武天皇は天下を統一せられて都を橿原に奠め給ひ、即位の式を擧げさせられたのであるが、これ即ち皇紀元年として我國の紀元は茲に始まり、天業の恢弘は芽出度く成就あらせられて國基益す鞏固なるを加へ、皇統は連綿として萬世を貫き、寶祚は天壤と與に窮りなく、金甌無缺の國體は光輝ある歷史の盛跡と共に宇內に冠絕するに至つた

聖蹟巡り（十一）

神都美々津は美々津川の海に注ぐ所に形成した自然の良港で、神武天皇御東遷御船出の神跡である、此の地は御船出の津と云ふ事から御津と稱へ、後何時の頃より美々津と記す樣になつた、御召船は港口を離れて沖へ沖へと進む、港外一浬の海中に龍神礁がある、それから東に少し離れて一つ島がある、此の兩島の間を一つの瀨と云ひ御召船は此所を通過し再び御還幸が無かつたといふので、阪神方面に行く船は一の瀨を通らぬのが神代からの習慣となつて今尙嚴として守られてゐる、昭和九年秋御東遷二千六百年記念祭の時龍神礁に「神の御あかし」を奉納する意味で御光の塔が建設された

講談倶樂部（三月號）

◇加藤武雄が筆に新人の息吹きを籠めた「新生の歌」、間諜ものでは海野十三が「マチノ要塞の戰慄」を描いた「二人の日本義勇兵」、兩國春場所と時を同うして角力黃金時代を反映した神田伯山の「櫻川出世相撲」などいかにも潑剌として感興を唆るに充分だ

◇其他の新裁物を拾ひ上げると「見物席の笑劇」佐々木邦「雪の御朧師」土師清二「嚴流島」三遊亭小圓朝「囘まされた彦左」笹本寅「忘れぬ面影」横山美智子「兵兒の歌」小山寬二など何れも鐵中の錚々たるもの

◇新年號以來人氣を呼んでゐる川口松太郎「女浪曲師」はますます佳境に入つてこのところ王者の感がある

富士（三月號）

◇連載陣の賑かなことは富士の特長だが「櫻の宴」山岡莊八「春告ぐる嵐」川口松太郎「名月よしや組」海音寺潮五郎など人氣を呼んでゐる樣だ

◇新載八篇では「都會の職慄」野澤純「緋緘の女」土師清二「暗黑街の機密室」我妻大陸などヴアラエテイ充分だ、井口靜波の「噫！山縣部隊長」も興味橫溢してゐる

◇この他にも「勝利者の言葉」横山美智子「美人爭覇戰」鹿島孝二「駿河屋政談」小金井蘆洲「貨殖武士道」笹本寅、映畫小說「背信」大林清があり、何れも興味滿點である

幼年倶樂部（三月號）

◇早くから教育精神を尊重して來た幼年倶樂部は、三月號には一層改善意識に燃えてゐるのが窺はれて結構なことである

◇讀物にも宮脇紀雄、江口きよし、北村壽夫、小島健三、久米元一などの新進起用に英斷を見せてゐるし口繪なども二千六百年奉祝の意味をもつた特輯、滿洲國の發展を示した繪解ものなど氣の利いたものである

◇牛乳の出來るまでを漫畫入りで示した繪解き記事など、幼い讀者には非常によいものだと思はせる、印刷や、色彩も鮮明だし、子供讀物として課外讀物としてよい、幼年倶樂部にはやはりよい處が多いのは流石である

新年文藝・選外佳作

交番のある風景（一幕一場）

神田林造

迷子の少年「おしつこしたよ！」

『騙された女』迷子を自分の方へ連れて行く。

『自轉車を盗られた男』狼狽て登場。

自轉車の男「旦那大變です」

森警尉補「何が大變なんだ」

自轉車の男「大變です、泥棒を早く捕まへて下さい、すぐ非常線を張つて下さい！」

森警尉補「藪から棒に非常線ぢや分らんぢやないか何を盗られたんだね」

待つてゐる男「おい／＼さう押さんで下さいよ、アッ！着物の袖がちぎれるぢやないか」

自轉車の男「どうも濟みません」

待つてゐる男「濟みませんて押し分けてゐりや世話ないぢやないか――アテテ、今度は足を踏みやがつた」

自轉車の男「どう／＼」

他の男「順番々々」

森警尉補「あんたは？」

別の男「今度此方へ來ましたんで」

森警尉補「居住屆の用紙ならあすこに下つてゐます次は？」

待つてゐる男「黒河の方へ旅行したいんですが手續きを一寸――」

森警尉補「向ふの人の所に雛形があるから」

待つてゐる男「ご免／＼」

自轉車の男「あいてゝお前さんも足を踏まんように」

待つてゐる男「いや濟みません／＼」

本田警長「自轉車は何處に置いたのかね」

自轉車の男「操に言ひつかつて人參を角の滿人の八百屋で買つてゐる内に、ほんの二三分、いや早い奴ですよ」

森警尉補「どんな自轉車だね」

自轉車の男「どんな自轉車つて、普通乘つて走る自轉車です」

森警尉補「黒塗の二十六吋で中古品ね、番號は？」

自轉車の男「さあそいつがどうも、何んでも終りが四です。四なんて縁起が悪いつて言ひますが爭はれんもんですねえ」

森警尉補「一寸見てすぐ見分けがつくと云ふやうなところは有りませんか何處かこわれてゐるとか」

自轉車の男「ベルが違ひます。こわれたんで子供のおもちやをつけてあります。コロコロて鳴るんですがね」

森警尉補「ぢやすぐ見付かるでせう」と書類を作り始める。

本田警長の電話をかける聲が時々聞えて來る。暫くして本田戻つて來る。

本田警長「あるさうです。驛の警護隊の方にあるから行つて下さい」

旅行の男「さうですか、有難うございます」と飛ぶやうに退場。

自轉車の男「いつごろ見付かるでせう」

本田警長「それは分らんね」

自轉車の男「弱つたなあ。まるで足をとられたやうなもんでして」

舞臺暫く沈默。この頃は大部分の登場人物は退場し森警尉補。本田警長。自轉車の男。騙された女迷子が殘つてゐる。騙された女は迷子に古ぼけたハンドバッグを與へて遊んでゐる――間――「操に逃げられた紺野と云ふ男」登場。

紺野「やあ旦那方でおいでですか」

本田警長「また來たね。何か一大事件でも起きたのか」

紺野「いえ旦那冗談ごとぢやありません、今度こそは一大事件です」

本田警長「いづれ鱗りの猫が魚を食つた式の大事件だ」

紺野「飛んでもない。人を探かしていただきたいんです」

本田警長「家出人か、何處の女が逃げたんだ」

紺野「私の家内で――」

本田警長「家内？――だつてあんたは獨身ぢやないかね」

紺野「實は最近嫁を貰ひましてね、お屆しようと思つてゐる矢先に逃げられたんです」

本田警長「そりや一大事件だ。何時頃かね、逃げたのは？」

紺野「さあ先づ昨夜の一時半頃ですかな」

奉祝紀元二六〇〇年

北・小國

現神しろしめす國日本は天地のむた極りしらず

あなとうと悠久二千六百歳天祝ぎ地祝ぎ彌榮し國

天地をどもよし響く祝ぎ歌の淨らに淨し神も應へむ

とほつみをやの魂にも通はめ億民の擧る祝ぎ歌紀元二千六百年

天界の法悅を見出せ！

＝青木、遠藤氏等のことについて＝

(3) 河利致

私の言ひたいことは、他人を殺し他人の成長を妨げる行爲は直ちに中止せよ、といふそれである。この數日の間に、他人のあげあしを取つてそれを面白さうに眺めてゐる不都合千萬の徒輩が、私共の前に横行してゐる。英國人的なグループが躍つて正に文化のギャング行爲をやつてのけてゐるさうではないか。たとへば遠藤美津男氏の行爲、岡田芳彦氏の行爲、青木實氏の行爲正にその類似のものであると言へよう。私の欲してゐるものは他人の中傷を目あてとしない心からの教示的忠告である。打たれる者以上に悲しい打つ者のその心のうちである。遠藤氏のとられた手段は輕卒であつたと思ふ。青木氏の一節は行き過ぎてゐはしまいかと思ふ。岡田氏の抗議は無駄で且つ失禮ではないかと思ふ。就中岡田氏の如きは重要なのはモラルで、どつちでもよいものはモードである、といふことの心理が解つてゐないで徒に他人の頭上の蠅のみを逐ふ恥辱の行爲だ。人氣は存在する。然しそのなかには尊敬が無い。言葉は大切なものだ。しかし感情だけのものであつては駄目である。岡田氏は小ざかしい人氣の上に感情だけの言葉を巧みに使ふ若い人のやうに思はれる。そのやうな人にして他人の成長を阻まうとするのは常にあり勝ではあらうが、それは聖戰下日本の國民ではない。日本人として爲すべきことがらではない。日本の聖戰は、迷夢支那の覺醒と大亞細亞建設のその爲にである。私への抗議はそれでよいが、再び他人の中傷を目當てした手先の器用で且つ小悧巧さで抗議することだけは止めてほしい。

遠藤氏に對する本欄の批評氏の戒めは別に腹を立てなければならぬといふやうなものではいけない。愛を惜しみに變へてはならない。批評氏は自らバクゲキ機と稱してゐる。同氏は鬼手佛心の魂を所有してゐる人だと私は想像する。遠藤氏が滿洲新聞を通じて抗議したことは自分の絶對價を信じようとする無理な手段であつた。私は思ふ。あの場合かりにバクゲキ氏がはげしい鞭を加へたとしても、遠藤氏としては更に右或は左の頰を向けて叩かるべきであつた罪のすべてがバクゲキ氏にあつたにせよ愛のそれを百倍して赦すべきではなかつたかと。たしかに輕卒のそしりを免がれない。褒めらるゝことは嬉しい。しかし成長の鞭はそれ以上に貴く嬉しいものだ。

青木氏が滿洲新聞の文學以前の一章に書かれたものはあく迄も行過ぎてゐる、さもなければ死んだタイプの

な點はなかつた。私の場合を考へてみられたらいい。私は幾度か鹽辛い鞭を同批評氏から受けてゐる。然し私としては當然であると思ふし、したがつて有難い忠告であると思つてゐる。時として手厳しい批評があるしかし私の考へは、それだけ熱烈な愛情をかたむけられてゐるのだと思ふ。感謝すべきであつて逆恨みして

なかに人間を押し込めようとした暴力沙汰と言はれても致しかたない。一つの意見はいい。しかしあのことは非難であつて忠告ではない。中傷であつて、愛情の發露ではなかつた。私はさう思ふ。事實を言へば、人間の言葉は、浪花節のやうにいつも同じ範圍內で語られるものである。私共は妻にむかつてはお前！と、言ふのを日に數へ切れないほど繰返へして言ふ。達三の「花のない季節」といふ小說は新聞に雜誌に、映畫に單行本に、その他に掲載されてゐる。大衆的な記憶のなかには彼の忠臣藏があり、淸水次郎長がある。隨分多く同じ人のペンによつて書かれてゐる。このやうに同じことが何遍繰返へされようと、それは決して不思議ではない樣に、批評家が何遍同じ批評を繰返へさうともそれは自由であるばかりではなく、効果的である。青木氏の同じことを繰返へさないことの一章には不同意である。ともあれ、大切なことは批評家の成長をこそ冀へ、それに味噌をつけるものであつてはならぬことだ。

私が本文のなかに青木、遠藤氏等を引用したのは失禮である。しかし私としては、顔と顔とを知つてゐないお互ひではあるが、同じ方向にある者同志の圓滿なる協力を思へばこそこのなかに引き出さなければならなかつた。私共は喧嘩をしたり、無駄な議論をしてみたり、同志打ちをやつてみたりしてはならない。

お互ひに助け合つてほんたうの神の造花をこしらへて行かなければならぬ。私共は未完成な人間である。その爲には更に協調、協力融和が必要である。喧嘩も時としてはやらなければならぬであらう、夫婦喧嘩のやうに。そして戰ひも進んでやらなければなるまいだらう、日支事變の如くに。しかしそれ等は常に人類の愛の上に立つものであることが肝要である。

私は他人の忠告を嬉しく思ふそのやうなお互の住む世の中を美しいと思ふ。天界の法悅を見出さんがために仲よく前進することに勵み合ひたい（一・三一）

バクゲキ機

荒削り

鮎川三鶴「あこがれ」（『滿洲行政』二月號）

荒削りな作だと思ふ。思想運動をやつてゐた男に愛情を感じ獄にゐる彼に着かれながら後にこの男の（は蒙古地方に渡るのだが）獨身の生活をしてゐる女の獨白を書いてある。（小說に成る）素材なのだが、整理がよく出來てゐないのである。時間の經過による心理の動きの陰翳がはつきり讀者にうなづけるものとなつてゐない。感銘が甚だ薄い、つまり訴へる力に缺けてゐるのである。

それにこのやうな小說では、男の方ももつと書き出すべきではあるまいか。單なる類型的なものを粗雜に持つて來ただけでは、女の獨白も生きて來ないと思ふのである。（御垣衛士）

繪畫への散步

――第五回土星會洋畫展覽會感想――

岡田芳彦

×

不意に、キララのやうな空氣の、冷たい皮膚に觸れたく、曇つた硝子の戶を開けて、その住居を後にすると、新京の皮膚はきりり、まるで氷の世界にきたみたいな氣持になる。

〇田・〇田　唇から、こんな言葉がぽつんぽつん、誰かのパイプみたいに、現れたりする。

その中を、野兎みたいな恰好の、私が〇〇。になつて步いてゐる。

豐樂路は雲母でも貼つたやうに、光つてゐる、午後の、眠い陽を浴びて。

縞馬や孔雀みたいなハンケチを、頸で、ホホカムリみたいに結んでゐる少女が、垢で、紙みたいに光つてゐるマアチヨに、澄した表情で坐つてゐる。

×

三中井の五階ギャラリイで、土星會の油繪の、荒地に生えた白樺の樹みたいに、寒い陳列が始まつてゐた。

×

生乾きの壁みたいな模樣の太田洋愛が、菫のパラソルをさして、よちよち這つてゐる。そして、ぷつと土造の平屋にもたれたりすると、カメレオンみたいに、波は失せてしまつた（應召記念Ａ）（應召記念Ｂ）は大理石の床で背伸びして（蒙古の力士）みたいなツラになつて（教會堂）はアワテタ鏡みたいと悲しむ。

×

遙か、ヨルの世界から、ぽんと、拔けてきた寫眞技師の、李平和は、澤山の日向葵に出逢つて、思はずシヤッターを切る手付きで彼の縮みたいな鼻を振つて、ウ、、、。（ハルビン墓地）（花）の繪ハガキみたいなポオズも、新しい意欲を持たうとした（無題）でやゝ崩れかけた。

×

濃靑色のリノリユウムの蔭から、バナナの葉みたいな髮毛と、素燒きの魚みたいな表情の白崎海紀は、狂つた眼付きで、彼の赤や靑の、ドレスみたいなニユアンスが、蝗のやうに飛んでゆくのを、見詰めてゐる。（風景）（無題）などは無秩序な亂暴な素描。そして、酩酊した土地や雲よ。

×

枯草のやうに、ひそりと折れた頸の高見淸一は、美しい池を覗いて、蝌みたいな聲をだした。あゝ（Ｈ君像）はマヌカンみたいに傾いてキヤガル、と。

×

チエックの鳥打帽みたいに、フレッシュな佐竹禹南は（キタイスカヤ街景）（ハルビンの朝）などで、五色のタンポポみたいに花火した。白系露人の硝子玉みたいな美を見せる彼は、赤煉瓦の館で、軟かに風船を膨らましてゐる。口笛みたいに、愉快な色彩のそれを。

×

（雪）（風景）（河岸）などで腫れた歌をうたふ、濱田九一郎は、河いろや柵や路が、不細工に歪んでゐる處に住んだ。そして（姑娘）（小孩）を描いて、にやり、メヅサの石みたいに笑ふ。

×

セピア色の、陶器細腦髓が、山羊みたいに、ウフ、フ、何か喋つてゐると、壁の裂目で、蛙に似た聲で、ベルが泣いた。（署名が針の曲つたみたいで、トテモ下手糞）

×

河童みたいに、掌で、ぺらぺら。私の精神に（セザンヌ以前の繪畫）といつた花束が生えた。

×

前衞藝術の喜びよ。新しさは決して流行とは違つて何らかの意味をもつ、美しい種子の存在に似て。

記念演奏を電波に　初の海外放送に成功

本社主催　奉祝大演奏會の美果

夕刊既報、首都慶祝委員會本社主催の奉讃日本紀元二千六百年國都吹奏樂團合同大演奏會に於ける絢爛豪華な興亞のメロデーは新京中央放送局によつて遠く海外に放送されたが場外演藝の

海外放送 は同局のはじめての試みでその成果には多大の期待がかけられた、この日放送局當局では萬全を期し東學藝課長を總指揮に係員五名開會に先立ち午前十時會場に駈けつけ張り切つてテストを開始したが、非常に良好なコンデーションに萬事ＯＫとばかり放送の準備を完了待機こゝに在京各吹奏樂團合同によつて奏せらるゝ滿洲建國以來

未曾有の 豪華興亞のメロデーは國内及び日本は勿論遠く太平洋を隔てた西部アメリカ一帶に向けて放送せられた、蓋し國都に於ける演奏樂團の海外放送は嚆矢とし放送史に一頁を劃するもので全員彌が上にも緊張した、同三時二十九分渡邊アナウンサーは日語を以て國内アナウンスを開始、三時三十分ハワイ大學出身の船田アナウンサーは海外に向つて英語を以てそれぞれ本大會の趣旨及び曲目の解説をなし先づ新京音樂院吹奏樂團の演奏するベートーベン作品拔萃曲により幕は切つて落され、引續き坂西輝信氏指揮の下に舞臺一杯ずらりと出場した

全樂團員 二百二十數名による豪壯二千六百年奉祝國民歌演奏に移り興亞を誇り千秋のメロデーを乘せる電波は全世界に擴かつて行つた

感激の旋律に絶讃の嵐！

立錐の餘地なく、たゞ流れ出る舞臺からの旋律に醉へるやうに耳を傾けてゐるこゝ西廣場滿鐵クラブ奉讃紀元二千六百年國都吹奏樂團合同大演奏會々場—それは將に豪華な音響祝祭である各個處から贈られた花環は會場に立並び、この崇高なる意義をもつ音樂會を更に盛大なものにした、新京中學、滿鐵、電業、新京商業新京軍樂隊と演奏プロは順を逐つて白熱化し、聽衆もまた渾然として音律に融け合ひ、一曲ごとに場を壓する拍手のあらしが卷き上る休憩時間の雜踏の中を顏見知りの新京中學校長澤樂長新京商業萩原樂長の姿を見付け、感想はと問へばこもごも左の如く語つた

かうして一堂に會して大合同音樂會を開催したことは何と云つても嬉しい限りです、今後機會を見てはやつてもらへると幸だと思ひます、吾々としては何分にも學生バンドのことですから技術上では多々拙劣なものがあるでせうが、たゞかうした場所に出るだけで大きな意義があるわけです、生徒達は人前で演奏すると云ふだけで非常に緊張しこれを動機として格段の進展を遂げることゝ思はれます、何しろ自らを省ることが出來て大變有難いことだと感じてゐます

第二部の新京音樂院混聲合唱が森嚴な管樂器の吹奏の中に一脈の柔みをもつて流れ聽衆の耳を和かなものにする、つゞいて新京音樂院の本格的な吹奏か拍手裡に終り、愈よ本演奏會白眉の全樂團合同演奏か阪西輝信氏のタクトによつて堂々と會場を壓して吹奏される「二千六百年國民奉祝歌」「協和行進曲」「愛國行進曲」と、いづれも馴染み深い曲に聽衆席から小さく感激の合唱が流れて行く、力強い餘韻を殘してタクトは終止符を打つた、拍手、拍手、拍手、狂熱の拍手は世界の隅々まで屆けよと渦卷いた、場内はプログラムの進展と共にクライマックスに達しこの感激の中に續いて待望の特別出演の關東軍軍樂隊の演奏が開始された整然といさゝかの狂ひのない田村樂長のタクトは「軍隊行進曲」を最後にピタリと止つた、靜寂の一瞬、そして忽ちそれが崩れて爆發したやうな拍手の嵐——響くはどよめきが傳り人々の頬が上氣してゐる、幕が上つて關屋副市長の姿が現れた、愈よ最後の萬歲三唱である、二千人の力強い唱和が三度會場を搖つた、あゝ感激の演奏會は津田協和會首都本部員の感動に震へる閉會の辭に終了、かくして絢爛豪華を誇る大音樂會の世紀のメロデーは國内はもとより遠く北米に送られ意義一入深く盛會裡に午後四時半閉會した

尙演奏終了後各吹奏樂團樂長七名、主催者側松本協和會首都本部事務長以下、本社側より野口事務部長以下參集、座談的に種々懇談を遂げ午後六時過ぎ散會した

聖地に參拜團

【橿原國通】入洛中の山本聯合艦隊司令長官、古賀第二艦隊司令長官は十日午前八時半幕僚を從へ京都ホテルを出發自動車を連ねて伏見桃山御陵に參拜したのち午前十一時橿原神宮齋皇紀二千六百年紀元節祭の盛儀をあすに控へて森嚴一入加はる神宮ならびに畝傍山陵に參拜それぞれ歸還したがこの日艦隊乘組員も堂々隊伍を整へ同神宮に參拜聖地に海軍色を氾濫させた

參拜團の壯擧に贊同

意義一入深き十一日紀元の佳節擧行する永沼挺進隊墓碑參拜團は申込み續々と相次いで盛會を豫想されてゐるがこの壯擧に贊同、參拜團に對し接待用として既報經王寺の檀徒有志から金員の寄贈あつたほか次の如く各方面からそれぞれ寄贈あり、主催側では感激接待方法については萬遺憾なき對策を凝らしてゐる

一、參拾圓五日會一、五圓岸本朝二郎一、五圓北原紙店一、五圓八千代館一、五圓岩坂本三郎一、五圓開花一、五圓小西鹿藏一、五圓田中卓二一、拾圓帝國在鄕軍人會新京聯合分會一、七圓松龍洋行一、五圓久野淸太郎一、五圓松田益太郎一、五圓小林淺井庄一郎一、五圓帝都キネマ岩夫一、拾圓滿洲國防婦人會一、拾圓于市長一、拾圓協和會首都本部一、拾圓船越商會（順序不同）

神々しき建國の宮、橿原神宮

國都に展く慶祝大行進

忠靈塔聖域に嚴肅な式典

悠遠な歷史、雄大な建國精神に燃ゆる大御代の彌榮へます祖國日本の世紀の年、紀元二千六百年の紀元の佳節けふ昭和十五年二月十一日は興亞の黎明を告げる聖戰下一億國民の感激も一入新たに訪れた、この日友邦のどよめく歡喜に足なみ揃へ國都の慶祝繪卷は全市を擧げて繰り展げられる

午前零時を期して黃龍公園朝日ヶ丘から吉岡行彌師が精魂込めて打つ二千六百の平和の鐘の音は餘韻條々しょまの街に終夜鳴り渡つて、春色に滿つ世紀の朝は燦々たる陽光に惠まれ麗らかに明けた戶毎に立ち並ぶ日滿兩國旗ははた〳〵と感激に震へ、行き交ふバス、自動車、馬車、洋車もそれぞれ慶祝のよそほひに街を流れ、各商店の飾り窓には意匠を凝らした美しいデコレーションが一段と人目を惹く、かくして慶祝前奏曲は街一杯に奏でられて行く

絢爛豪華な慶祝行事のトップを切つて午前八時五十分護國の英靈鎭まる忠靈塔の聖域に首都義勇奉公隊並に協和青少年團等興亞の理想に燃ゆる若人約一萬五千名參加の下に嚴肅なる慶祝式典の幕が切つて落され、續いて全市は慶祝一色に塗りつぶされて行くのである、街この日の諸行事は次の如くである

▽國運隆昌祈願大禮　午前九時東四道街天主堂
▽紀元節式典、午前十時新京神社
▽慶祝講演映畫會（滿系）午前十時國都劇場
▽慶祝大會　午前十時祝町太子堂
▽永沼挺進隊墓碑參拜、午後零時廿五分新京驛出發
▽武道大會、午後一時新京商業道場
▽慶祝青少年團講演映畫會（日滿合同）午後二時協和會館
▽慶祝會、午後四時大同大街紅卍會
▽慶祝大會、午後五時東三馬路道德會本部
▽慶祝講演演劇會（鮮系）午後六時協和會館
▽日本紀元二千六百年紀元節聯合禮拜、午後七時西五馬路禮拜堂
▽慶祝の夕　午後七時社員クラブ

滿洲農產買付

【京城國通】總督府では鮮內食糧の充實を圖るため滿洲より麥、大豆などの食糧品を積極的に買付ける方針を決定し、これが買付交涉その他準備のため農林局立山技師を再び滿洲國に派遣することになり同氏は八日のぞみで渡滿した

永年勤續の獻身的努力を顯彰

植田福松氏三十四年勤續　佳節に關東軍で表彰式

十年一日の如く恪勤精勵一意その職務に盡瘁し古くは日露戰役直後から關東軍司令部に奉職し過ぐる滿洲事變、滿洲建國へと獻身的勞苦を捧げ今日東亞新秩序の建設に與つて功ある軍司令部內在勤二十年以上の永年勤續者に對する賞詞並に賞品授與式は紀元二千六百年の光輝ある紀元の佳節をトして二月十一日午前九時三十分から陸軍新禮式に則り軍司令官室に於て嚴肅に擧行されることになつた、この榮譽ある受賞者は副官部の植田福松氏（明治三十九年奉職勤續年數三十四年）を始め二十五氏であるが殊に異色あるのは明治四十年に奉職し勤續三十二年に及ぶ日本內地人以外の最古參者張永成氏ほか四氏でいづれも今日あるを知つて皇軍に協力し滿洲建國に盡力した人々であつて今日その勞苦が報いられたわけである光榮の受賞者氏名は左の如くである【寫眞は三十四年勤續植田福松氏】

△植田福松（勤續三十四年）△芝熊太郎（同三十三年）△糸原武次郎（同三十三年）△張永成（同三十二年）△伊豆昌泰（同三十二年）△飯島利三郎（同二十六年）△王星炎（同二十五年）△多田義郎（同二十三年）△西岡監亮（同二十三年）△黃喜順（同二十二年）△內藤豐（同二十二年）△岡岩楠（同二十一年）△杉野友太郎（同二十一年）△支倉平治（同二十一年）△林豐造（同二十一年）△後藤重二郎（同二十一年）△小形龍治（同二十一年）△鎌田久五郎（同二十一年）△服部豐（同二十一年）△阿部勝一（同二十年）△岸良一（同二十年）△張永敬（同二十年）△仁城憲三（同二十年）△王正雲（同二十年）△渡邊軍治（同二十年）△中村茂（同二十年）

學童書道に特選の折紙

佳節に入選者發表

在滿日本教育會主催の紀元二千六百年慶祝全滿學童書道展覽會は全滿三百餘に及ぶ各地小學校から推薦作品約八百點の多數應募あり、新京、奉天、大連の三地區審査委員會で鋭意銓衡中であつたが、このほど漸く入選作品の決定を見たので紀元の佳節十一日を期して新京地區審査委員會から特選者氏名を發表する、なほ光榮の特選者は一地區一學年に就き一名、全滿廿四名で巡回展覽會は紀元節當日開催の豫定を大使館教務部の都合で今秋盛大に開催と變更されたが、新京地區の審査に當つた國展美術委員首藤春草氏は次の如く批評してゐる

從來新京より奉天、奉天より大連と南に行くほど書道成績が良かつたものですが今年の成績は新京も奉天、大連に劣つてゐず萬事が國都中心に向つて來る傾向の一つの現れとして大變喜ばしい事と思つてゐます

特選學童氏名

新京地區　一年（新京東光）セキネシゲオ、二年（新京東光）岡田卓人、三年（新京室町）屋代貴美子、四年（新京室町）川崎敬一郎、五年（新京西廣場）平野京子、六年（新京西廣場）辻潤、高一（新京室町）後藤豐、高二（新京室町）奥田露子

奉天地區　一年（撫順永安）ムラホキヤスロウ、二年（錦州）松崎馬幸、三年（奉天葵）岩田知弘、四年（奉天千代田）行山哲郎、五年（泉頭）中村之子、六年（赤峰）竹內安子、高一（鞍山）金森もと子、高二（安東朝日）杉町仁一

大連地區　一年（大連伏見臺）吉村雅之、二年（大連向陽）岡田卓夫、三年（大連光明臺）森永晃平、四年（大連伏見臺）森淸茂、五年（大連大正）芝田功、六年（大連聖德）林和子、高一（旅順第一）谷川百合子、高二（大連甘井子）藤田長光

捜査本部へ見舞酒を贈る　近藤新京隊長から

新春劉々に相次いで起つた殺人强盗の捜査に涙ぐましい努力を續けてゐる首警捜査本部へ十日午後新京憲兵隊長近藤新八氏は陣中見舞として酒一斗を寄贈し捜査全員の勞苦を犒つた

春節の遊客檢索に大狼狽

昨夜、盛り場を不意打ち

首都警察廳では十日午後九時から三時間に亘つて管下各署署員を總動員して全市に亘る妓館を始め客棧、飲食店、支那風呂の一齊檢索を行つた、春節三日目のことでありこれ等の個所は一年來の小遣を懷中にした遊客連で超滿員の盛況振りを見せてゐたが、この普つてない春節の檢索に狼狽する遊客を片つ端から檢問、擧動不審と見られる者はどし〳〵本署に引致取調べを行つた

最惡條件に直面（中）

要望さる人材と防犯協力　首都司法陣を衝く

かくして現在の司法警察は人的資源に惠まれず、さらに密偵政策から司法警察本來の姿である基本捜査への轉換期にある受難時代に直面してゐるものであつて延いては事件の解決に困難を感ずる原因の重大なものとして擧げる事が出來るのである、後者にあつては內地の警察との比較であり今さらの如く內地の充實せる警察力を謳歌する言葉でもあつた、勿論日尙淺い滿洲國警察界と比較對照することは大人と子供の相撲について論ずるに等しいことである、直接事件について眺める時それが一層判然とする當初突發した三笠町事件に於て事件の解決の鍵を握る最も有力なる證據である犯人は死亡屍體は現場に殘されてゐる、素人目にも殘された犯人の素性を明白にすることはこの事件を十中の八九まで追ひつめるものであることは自明の理である、然るに當局のあらゆる努力も空しく犯人の素性は今日尙不明であると言ふ、凡そ內地に於て考へられないことであらう、と同時に捜査の困難性をはつきり知ることが出來る、この缺陷は滿洲國に戶籍簿のないことにもよるがそれにしても警察行政の根本となる戶口査察が完全でないことを表明するものである

かやうに首警司法陣の現在は密偵政策から基本捜査へと捜査を軌道に乘せようとする轉換期の最も惡條件に置かれると共に建設途上にあるこの國の若さによる缺陷が伴ふもので當局を無能とのみ責めることは出來ない、必然どうにもならない人的資源の缺乏せる今日街の治安の完璧を期すことは民衆の警察への協力が重要な問題となつて來る、更に限られた人員にあつて最大の機能を發揮せしめようとするには優秀なる警察官に俟たねばならない

國防費獻金

十日午後新京ヤマトホテル理髮部土井明治郞さんは中央通署を訪れて陸、海兩省へ金三十圓宛、又同從業員一同は陸、海兩省へ金二十圓宛をそれ〴〵國防費の端にと獻金した

在庫品盗まる

東五條通五運送業高井勝太郎さんは九日午後九時より同十二時までの間に倉庫の施錠を破壞して侵入した賊にシボレータイヤ新品一個（時價五百圓）を竊取されてゐるのを發見中央通署へ屆け出た

七分鳩

大使館教務部督學室の佐伯英雄視學官の誕生日が紀元節の二月十一日なので紀元二千六百年の今年は特にめでたいと果報男を友達甲斐に大いに祝つてやらうと十日のランチタイムに寶山百貨店の食堂で同室の十人組が豚饅頭にお汁粉といふさゝやかなものながら「式日はいそがしいから一日くりあげての祝宴さ」とわつと歡聲あげ集會を賑してゐたが、しかも佐伯視學官の出生地が建國發祥の地宮崎縣日向國高千穗町とあつては今年の幸運を一人で背負つて立つ羨ましい果報者である

淺春胡同【四八】

工　清定　作
白塔　海若　繪

殊勲甲（5）

哲也は洋車の上で、合オーヴァも着ずに出て來たことに、初めて氣づいた。朝風は睡眠不足の哲也に、氣味惡いほど冷たかつた。

うしろの洋車から話しかけて來るルミの話など、彼にはまるつきり聞く氣がなかつた。

（出來るならば千也子と結婚して、父の從卒だつた源作の老後を安らかに養つてやりたい。場合によつては氣性の合はないらしい息子の代りに、家へ引取つて、源作が大陸の土にかへるまで、世話してやつてもよい。地下の父は、さうする俺を甘酢つぱい微笑を以て見るにちがひない）などと考へてゐた彼の豫想の第一段が、昨日見事に崩れたかと思ふと、今日は矢繼早に、その悲慘な總決算を強ひられたのである。どうして彼は晏如としてゐられよう。

家にはいつてみると、千也子や近所の人々に囲繞された源作は、氣息奄々としながらも、手當を頑強に斥けつつあつた。

彼が上り込んだ時は、すでにその肉體から、呼吸する氣力が搾りつくされてゐた。顔には生色といふものが、認められなかつた。

「しつかりするんだ！おい!!」

やにはに右手を肩にかけた哲也を、見上げる眼を定めるのにさへ、源作はかなりの努力と時間とを費した。

「一坊　坊つ、旦那！う、う……」

源作の兩眼からは堰を切つた涙が流れ出た。言葉と一しよに、樒の匂ひが喉か[illegible]れた。

「猫イラズを嚥んだんぢやないか！醫者に電話をかけたのか」

（もう助かる見込みはない）彼の素人眼にも思はれた。泣き沈んでゐる千也子の様子を見ては、ぢつとしてはゐられなかつた。

「ぢやが、どうしてもいやぢやと申されますけん…」

千也子に代つて、九州なまりの中年女が答へた。

「そ、そんな馬鹿な、呑氣な！」

「でも、醫者呼びに行つたら、自分で舌をかみきるけんと……」

その女は劣らず抗辯した。

「旦那…た、たのんます。千坊と、そ、そ、それに、かん、幹一……幹一は旦那の、お、おと、お……」

呼吸が弱りに弱つてしまつた。

「よし！みんなわかつたぞ！幹一のことも引受けたぞ！幹一は僕と仲がよくないと心配してるのかい？おい！」

哲也は頬に涙が流れ出るのにまかせて、源作の耳へ口をよせながらわめいた。

すると源作は、ほんのかすかだつたが、首をふつた——精神が最早錯亂したのだ、いとほしさうに見つめてゐると、源作の右人差指が、力なく茶棚を指さした。

氣をきかせて起ち上つて茶棚の戸を明けたルミは、そこから何通かの遺書を取り出した。

その様子が見えたのであらうか、源作の喉頭がごくつと鳴つた。千也子のすゝり泣きが、線香の煙のやうにひろがつた。

源作の遺書は、警察署長宛、幹一宛、千也子宛のもの外に、哲也宛の一通と合計四通だつた。

ルミに警察と醫者へ電話かけに走らせた哲也は、近所の人々を指圖して、物置きのやうな家の中を片附けさせながら、自分宛の遺書の封を剪つた。

列車發着表

◎大連方面行
△大連行　前二時三十分
△奉天行　六時廿五分
△釜山行　八時
△[illegible]行　八時廿五分
△大連行　九時三十分
△營口行　十時三十分
△四平街行　十一時三十分
△奉天行　後一時五分
△大連行　一時四十分
△大連行　二時三十分
△大連行　三時廿五分
△四平街行　四時五十分
△釜山行　六時五十分
△四平街行　七時四十分
△大連行　九時四十分
△大連行　十一時十三分
△奉天行　十一時三十分

◎哈爾濱方面行
△哈爾濱行　前三時四十分
△德惠行　五時十五分
△哈爾濱行　六時三十分
△哈爾濱行　八時十分
△哈爾濱行　九時
△哈爾濱行　後十二時五十分
△哈爾濱行　三時十五分
△哈爾濱行　五時三十分
△德惠行　七時十分
△哈爾濱行　十時卅五分
△牡丹江行　十一時四十五分

◎圖們方面行
△吉林行　前七時五分
△羅津行　八時卅五分
△圖們行　九時四十五分
△吉林行　後一時
△牡丹江行　三時二十分
△吉林行　七時廿五分
△清津行　十時五分

◎白城子方面行
△白城子行　前八時廿五分
△白城子行　十時五十五分
△前郭旗行　後五時三十分

◎大連方面より
△大連發　前三時卅二分
△大連發　六時十八分
△奉天發　七時四十五分
△大連發　八時
△四平街發　八時四十六分
△四平街發　九時四十分
△釜山發　十時卅二分
△奉天發　十一時四十三分
△大連發　後十二時三十分
△大連發　三時
△大連發　四時二十分
△大連發　五時二十分
△營口發　六時四十八分
△大連發　八時二十分
△奉天發　九時廿五分
△釜山發　十一時三十分

◎哈爾濱方面より
△德惠發　前零時三十分
△哈爾濱發　二時二十分
△牡丹江發　六時五十四分
△哈爾濱發　七時十四分
△德惠發　十一時三十分
△哈爾濱發　後十二時五十分
△哈爾濱發　一時三十分
△哈爾濱發　三時十分
△哈爾濱發　六時四十分
△哈爾濱發　九時三十分
△哈爾濱發　十一時三十分

◎圖們方面より
△清津發　前七時五十三分
△吉林發　十一時廿四分
△牡丹江發　後二時十分
△吉林發　五時廿一分
△圖們發　八時四十分
△羅津發　九時三十分
△吉林發　十一時十五分

◎白城子方面より
△前郭旗發　十一時一分
△白城子發　後六時卅二分
△白城子發　九時五分